が数十点散乱している。

玄室は、加工した凝灰岩の切石を用い、長径3.5m、幅1.6m、現高が1.5mの長方形の形状を呈し、下場が広く、上場にゆくと次第に狭くなる樽形の断面形態が推測される。

奥壁は、幅1.5m、高さ1.2mの一枚岩を設置している。厚さは50cmを測る。側壁は、切石の石材を２ないし３枚を２段に重ねてあるが、当初はさらに１段の切石を重ね、その上部に天井石を乗せてあったものと推測される。また、側壁の角度が第63図の３の図で示すように基部からやや内側に反るように設置されている。これは基本的に持ち送り工法を示していると判断される。側壁に使用された石材の中には石と石をかみ合わせやすいように角を加工したものも認められる。

玄門は左右対称で、幅70cm、高さ1.4mの長方形の凝灰岩を設置している。玄門は框石の両端に設置され、玄門の幅は80cmを測る。なお、今回の調査以前は東方の玄門が倒れた状況で出土した状況を加味し、復元した。

羨道の石積は、西側に切石１個が現存する。長さ1.1m、厚さ2.5cm、高さ80cmの長方形に整形されている。玄門の状況から推測すれば、前述したように約2.5m、前庭部を含めると玄室と同様な長さ3.5mと想定される。

框石は長さ１m、幅30cm、厚さ20cmの帯状に整形した石材を使用している。羨道箇所とは同じレベルに設置され、玄室が10cm低くなっている。玄室床面は、淡い青色の凝灰岩を意図的に砕いて整地してあった。

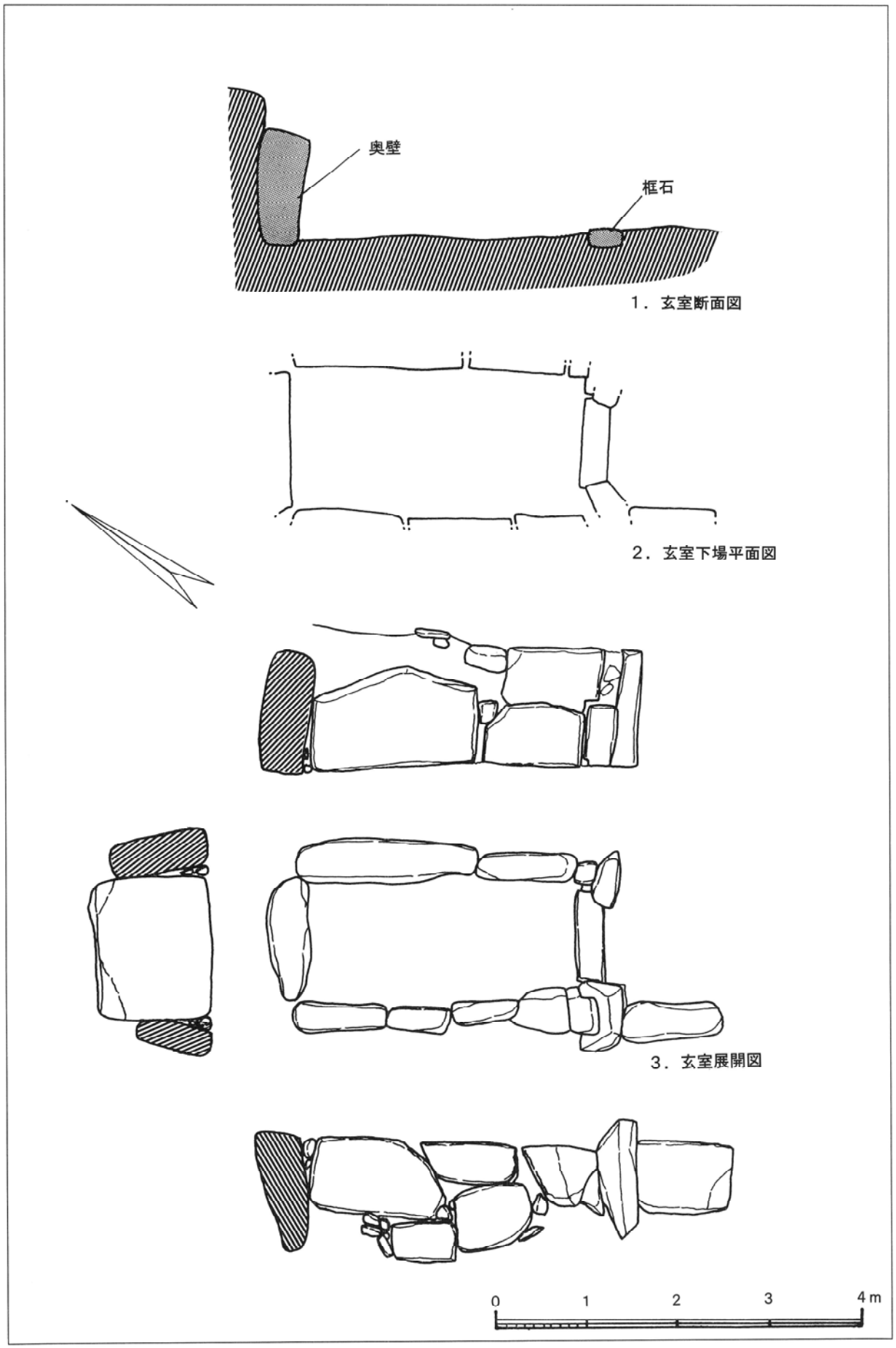
Ⅴ　出土遺物〔第65図、第二十四図版、第三十四図版参照〕

以前に二度に亘る調査で取り除かれ、ほとんど出土していないが、主体部から人骨の一部と墳丘の表面から土師器片が検出されている。第三十四図版14～23は大腿骨の一部と推測される骨片が10点出土している。同図24、25は永久歯の奥歯であり２点出土している。

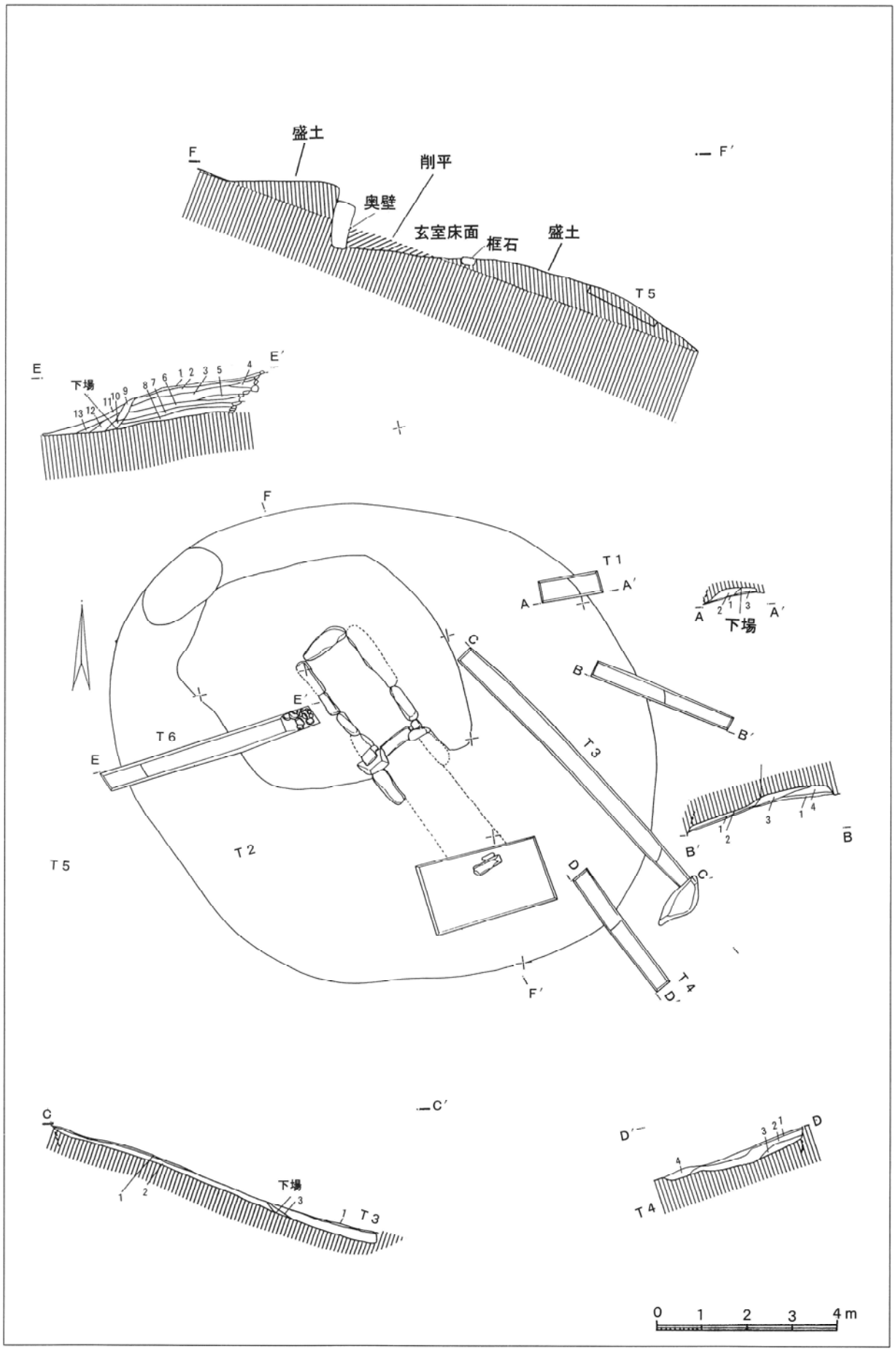
出土状況としては、前者の骨片は埋土からの出土であった。後者は第65図に示す地点であり玄室床面であったことから埋葬時の位置と理解され、頭部が奥壁の近く、すなわち北西の方向に安置されたことを示す。

土師器片は10点、須恵器片２点、中世陶器１点が今回の調査で出土している。土師器片は第三十四図版の４～13である。接合した４、６を除きすべて内黒土師器片であった。接合した土師器が第65図の４、６である。丸底を呈す土師器坏であり、口径12cm、器高は４cmを測る。８世紀前半の国分寺で下層併行と推測される。内黒土師器片も内傾で器高の低い特徴から同じ年代と考えられる。追葬の際に供えられたものとみられる。

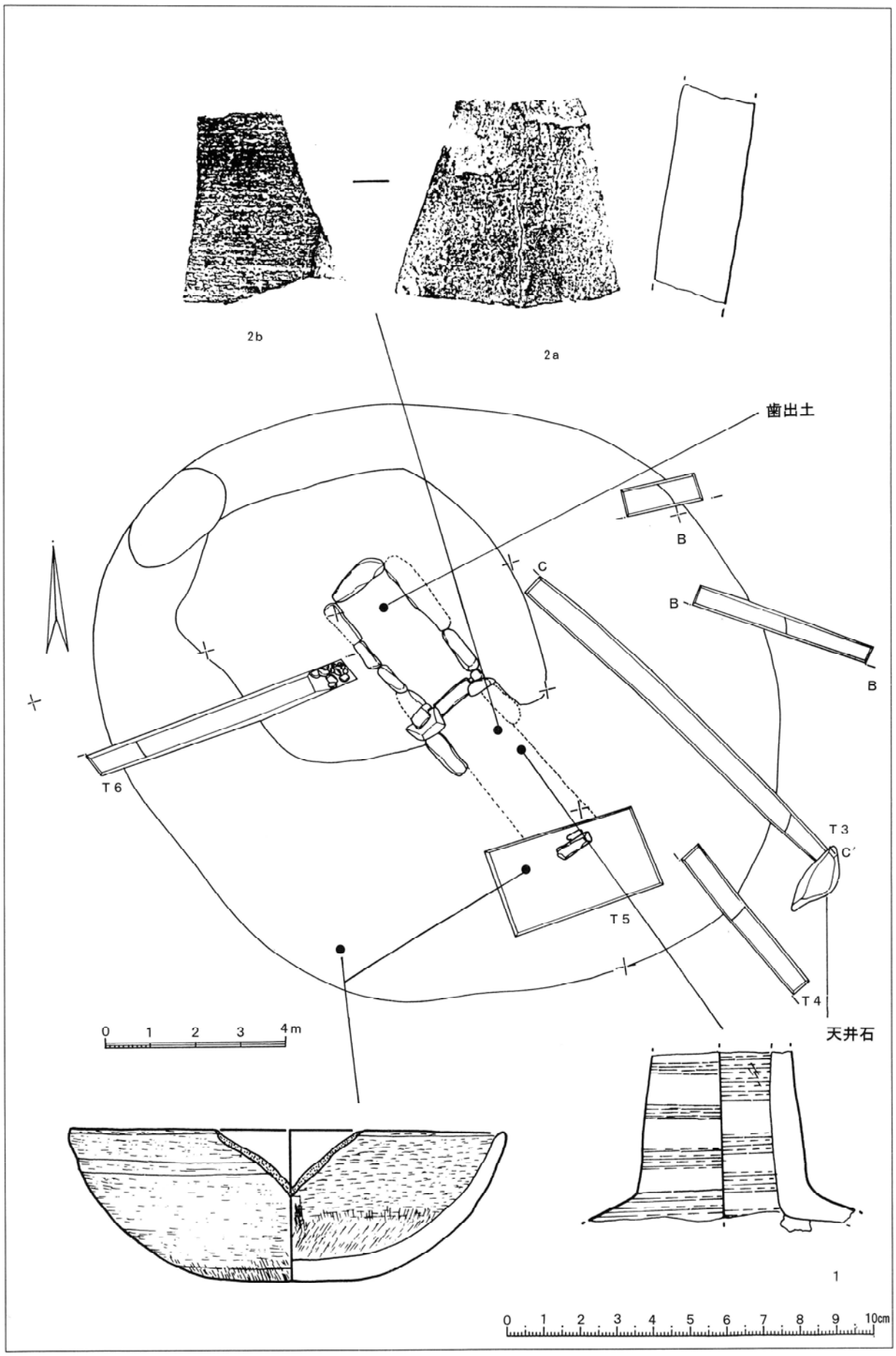
第65図１は長頸壺の頸部片である。ちなみに第二十四図版に示した昭和26年出土の長頸壺は器高が25.7cm、底径（６cm）、頸部径5.4cm肩が張る器形を呈す。今回出土の長頸壺片は胎土の観察から同一窯で焼成されたものと考えられる。両者とも隣接する木和田窯の生産である。出土品は二次焼成を受けており、古墳出土とは考えにくい。第三十四図版２は布目瓦である。同様な瓦は本市の中田町大浦Ｃ遺跡からの出土例がある。同図３は中世陶器片である。



第64図　木和田古墳玄室平面図



第65図　木和田古墳トレンチ配置図



第66図　木和田古墳出土遺物実測図

Ⅵ　まとめ

今回の調査では、主体部からの出土遺物は少量であり、年代を決定する資料は得られなかった。しかしながら玄室だけは明確に残っており、これまでに県内で検出されている横穴石室の中では最大のものとなる。(米沢盆地の主要横穴式古墳一覧参照)

大きな切石で構築する玄室の形態は、高畠町金原古墳、同羽山古墳、南陽市の二色根一号墳等が知られ、木和田古墳と同一軸の年代が想定される。試みとしては、７世紀の前半の年代が与えられるが、昭和26年の調査で出土した国分寺下層の土師器なども考慮に入れ、木和田古墳は７世紀後半の築造と推測したい。

古墳の被葬者としては、推測の域を出ないが、古墳の規模や形態、単独で存在する特徴を考慮に加えれば、当時の律令支配下に置かれた郡衙等に深い係りをもつ有力豪族の可能性が考えられる。

木和田古墳は、予想外の大型の石室を有することで、終末期古墳の成立や被葬者の特定を研究する上でも極めて重要な存在となる。また、木和田古墳の西側に存在する戸塚山古墳群は、県内最大の終末期古墳が集結するものであり、古墳群との係りも含めながら今後も古墳究明の調査を進めてゆきたい。

参考文献

1959　置賜史談会　「置賜の文化財写真集１集～３集」所収　置賜史談会

1977　置賜考古学会　「松原」　置賜考古学会

1983　米沢市教育委員会　「戸塚山古墳群詳細分布調査報告書」　米沢市埋蔵文化財報告書第９集

1983　米沢市教育委員会　「ニタ俣Ａ遺跡」　米沢市埋蔵文化財報告書第８集

1985　米沢市教育委員会　「報将寺遺跡」　米沢市埋蔵文化財報告書第12集

1986　手塚　孝　「米沢の古代文化」　所収　まんぎり会

1988　米沢市教育委員会　「遺跡詳細分布調査報告書第１集」　所収　米沢市埋蔵文化財報告書第23集

1992　佐藤庄一、佐藤嘉広　「米沢市杢代遺跡出土の縄文時代晩期の土器群」　加藤　稔先生還暦記念、東北文化論のための先史学歴史学論集　所収　加藤　稔先生還暦記念会編

1994　米沢市教育委員会　「遺跡詳細分布調査報告書第７集」　所収　米沢市埋蔵文化財報告書第42集

1994　米沢市教育委員会　「窪平遺跡」　米沢市埋蔵文化財報告書第46集

1995　米沢市教育委員会　「遺跡詳細分布調査報告書第８集」　所収　米沢市埋蔵文化財報告書第47集

1996　米沢市教育委員会　「一ノ坂遺跡」　米沢市埋蔵文化財報告書第53集

1997　川崎利夫　「置賜地域の横穴式古墳について」　山形考古第６巻１号　所収　山形考古学会

1998　川崎利夫　「置賜の王と古墳文化」　米沢市史第１巻、原始・古代・中世編　所収　米沢市

表－4　米沢盆地の主要横穴式古墳一覧

＊単位はm

古墳名	所在地	墳丘形態／規模	主体部全長	玄室長	幅	高さ	羨道長	幅	高さ	出土遺物	備考
蒲生田１号墳	南陽市上野字三居沢山	円墳／ 8.0	不明	2.0	1.17	1.15	不明	－	－		数十基が存在したと伝えられている
二色根１号墳	南陽市二色根字南京	円墳／ 8.0	不明	2.0	1.05	1.20	不明	－	－		
二色根２号墳		円墳／10.0	3.0	2.40	1.30	1.70	0.60	0.40	(0.30)	鉄族・鐔・足金具・銙帯金具	
二色根３号墳		円墳／10.0	不明	2.30	1.40	1.80	不明	－	－	鐔	
北目１号墳	高畠町大字高畠字羽山	円墳／ 8.0	3.3	1.80	1.60	1.15	1.50	0.80	0.75	鉄鏃・足金具・須恵器坏・壷・高坏・土師器坏など	13基の群集墳で構成
羽山古墳	高畠町大字高畠字羽山	円墳／不明	不明	2.40	1.80	1.80	不明	－	－	鐔・鉄鏃・勾玉・管玉・須恵器坏・瓶・土師器坏など	
安久津１号墳	高畠町大字安久津字味曾根	円墳／ 7.0	4.16	1.80	1.65	(1.20)	2.36	0.63	(0.85)	鉄鏃・蕨手刀・須恵器坏など	
安久津１号墳		円墳／23	(4.40)	2.40	1.70	(1.70)	(2.0)	(0.90)	－	鉄鏃・須恵器坏・瓶など	
鳥居町９号墳	高畠町大字安久津字八幡神社	円墳／ 7.0	3.3	1.50	1.70	1.80	0.80	－	－	鉄鏃	
清水前１号墳	高畠町大字安久津駄子町字清水前	円墳／12	3.4	2.0	1.90	1.70	1.40	1.0	0.95	須恵器坏	
清水前１号墳		円墳／12	2.1	1.55	1.80	1.80	1.30	1.0	1.0	鉄鏃・足金具・須恵器長頸壺	
金原古墳	高畠町大字金原字熊ノ原	円墳／(24)	4.0	2.60	2.30	－	2.0	1.25	1.20		
鼠持古墳	高畠町大字元和田字北和田	円墳／ 8	2.65	1.60	1.20	1.20	1.05	1.10	1.20		
天神裏古墳	米沢市大字長手字長峯山3761	円墳／ 8	4.2	2.20	1.25	1.75	2.0	0.80	1.5		
飯塚南117号墳	米沢市大字浅川字飯塚	円墳／12	5.4	3.30	2.2	(1.7)	2.1	1.15	1.5	鉄鏃・鉄斧・勾玉・鉄刀・須恵器（甕・坏・壷）など	飯塚南古墳群は49基の群集墳、市指定遺跡。
長手２号墳	米沢市大字長手字城山3789	円墳／10	4.13	2.33	1.31	1.80	1.80	0.70	0.95	土師器坏・須恵器坏・須恵器蓋・鉄鏃	９基の古墳群で、１号と２号墳は市指定遺跡。
牛森古墳	米沢市八幡原四丁目	円墳／ 5.6	2.2	1.0	3.0	1.0	1.2	0.50	0.6	鉄鏃１点・刀子１点・カ帯金具７点・須恵器蓋１点	市指定遺跡。
木和田古墳	米沢市大字木和田字月原	円墳／15	不明	3.50	1.70	(1.30)	不明	－	－	須恵器長頸壺・土師器坏・鉄鏃・鉄刀・人骨	昭和26年に柏倉氏が調査を実施。隣接する木和田窯跡は市指定遺跡。

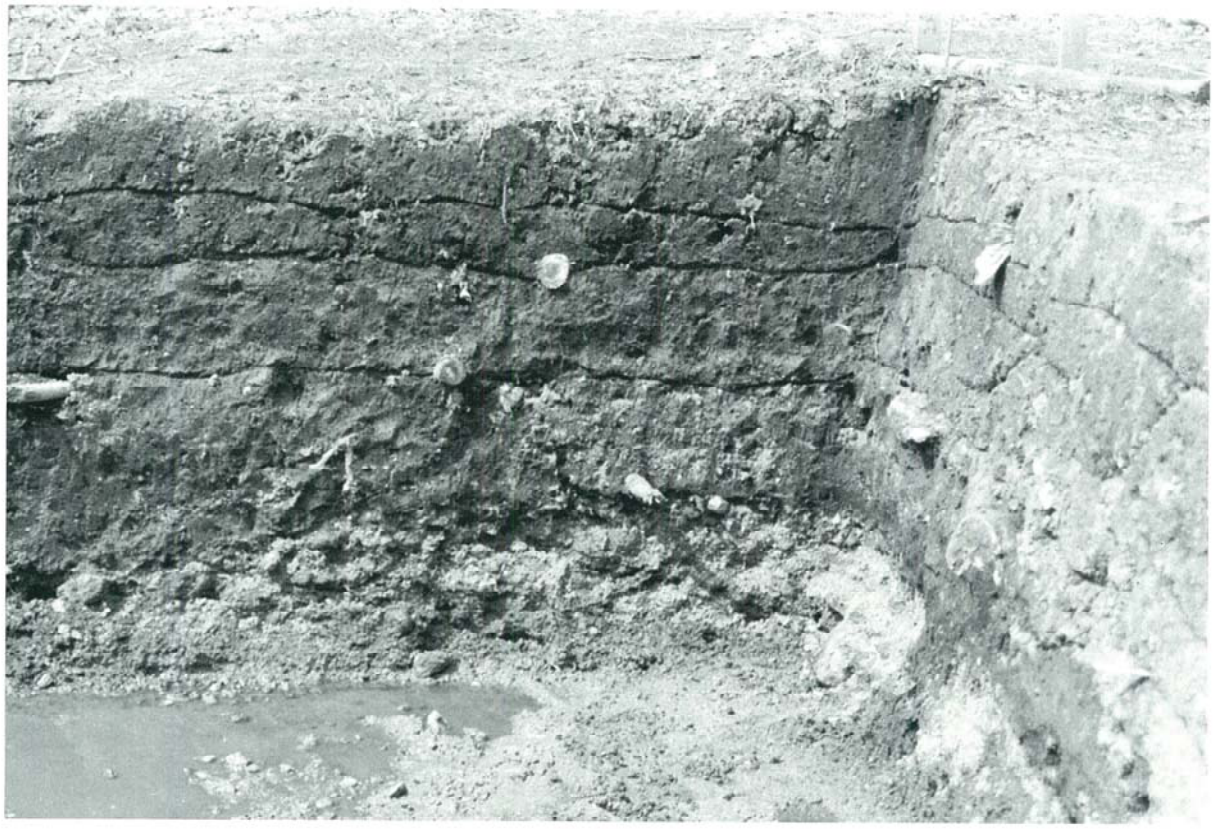
写　真　図　版

▲ Ⅱ層面礫出土状況（西南から撮影）

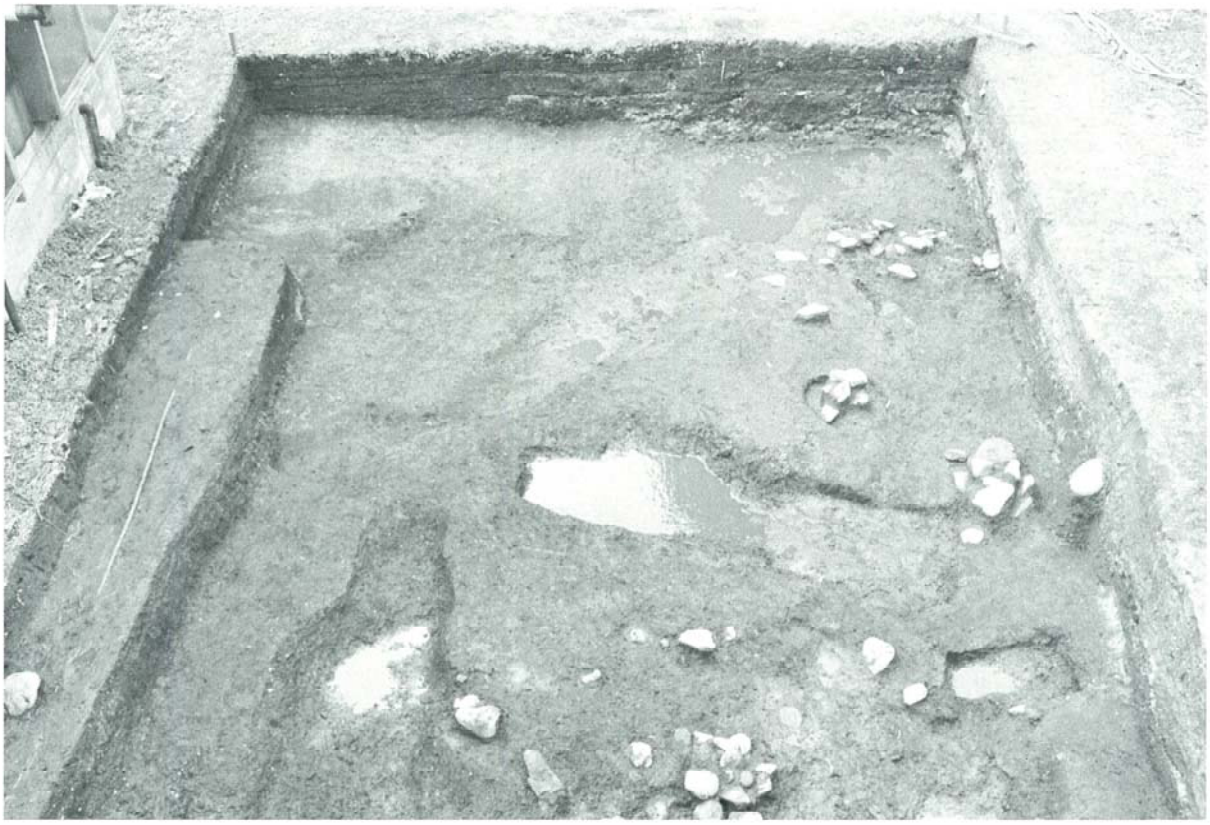
▲ 調査風景（南から撮影）

▲ Ⅲ層面ＡＺ24出土状況（東方から撮影）

▲ 最下層ＡＺ54の出土状況（西方から撮影）

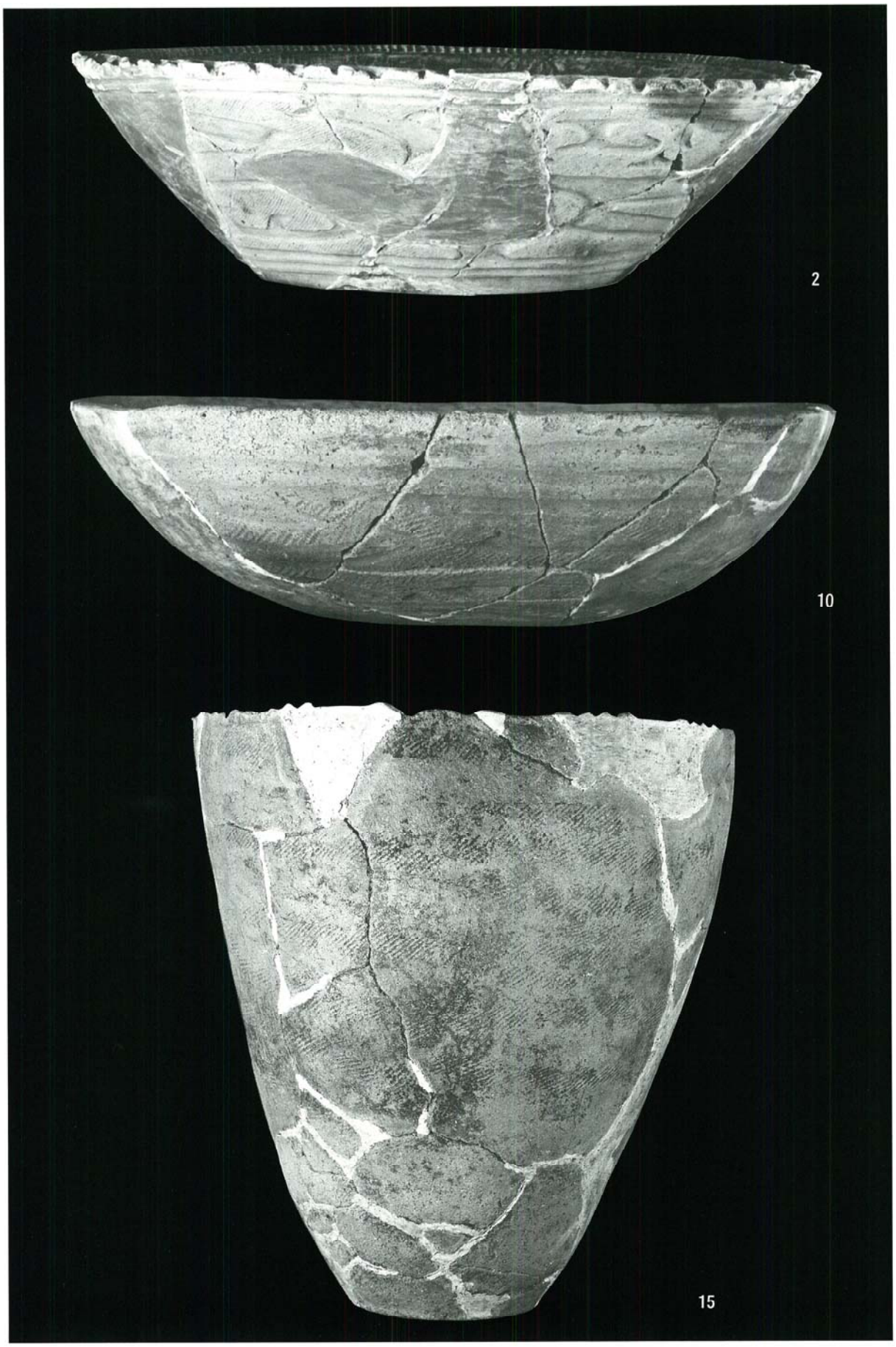


▲ 北東壁セクション状況（西南から撮影）

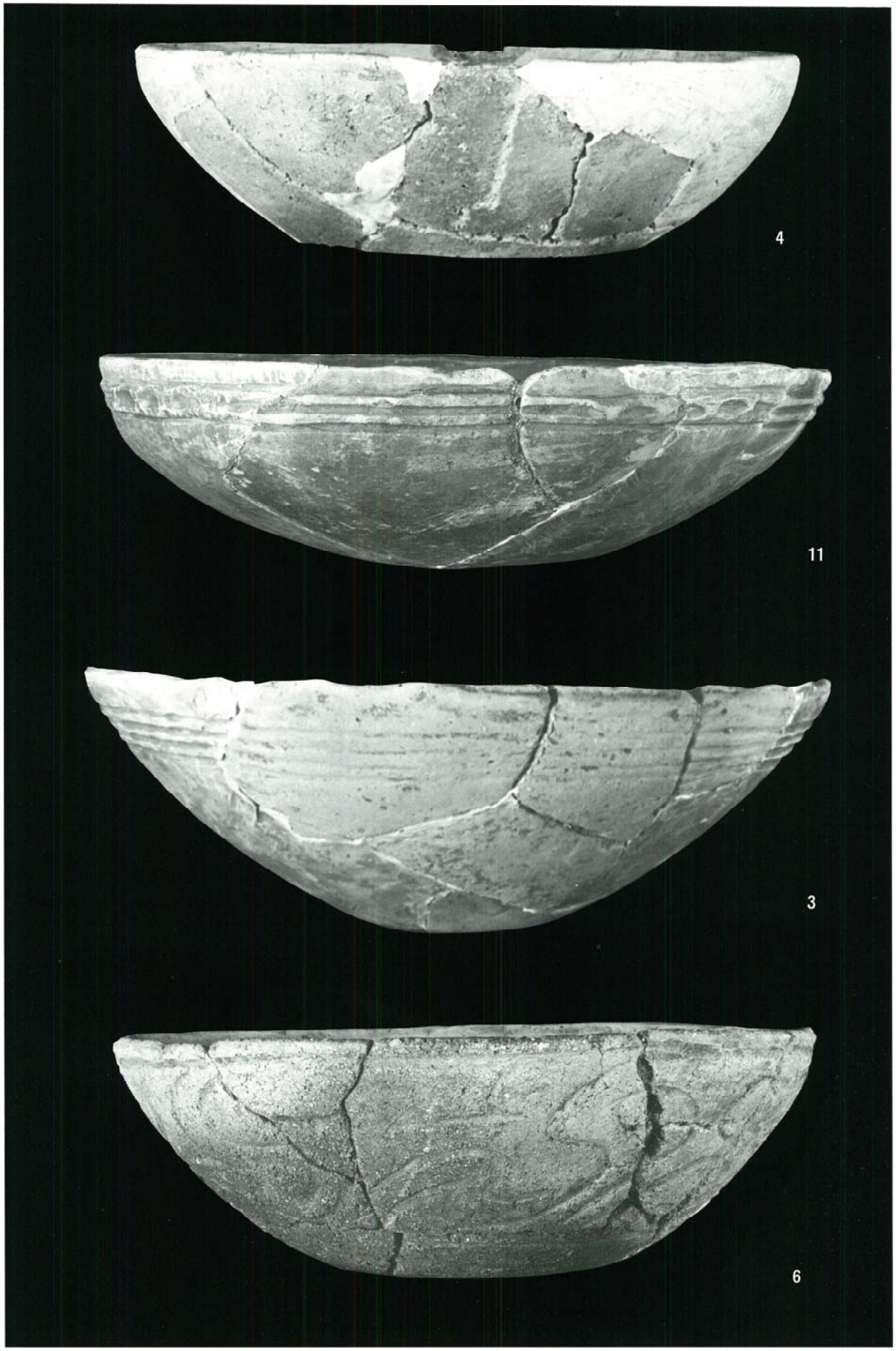


▲ 調査区全景（北東から撮影）

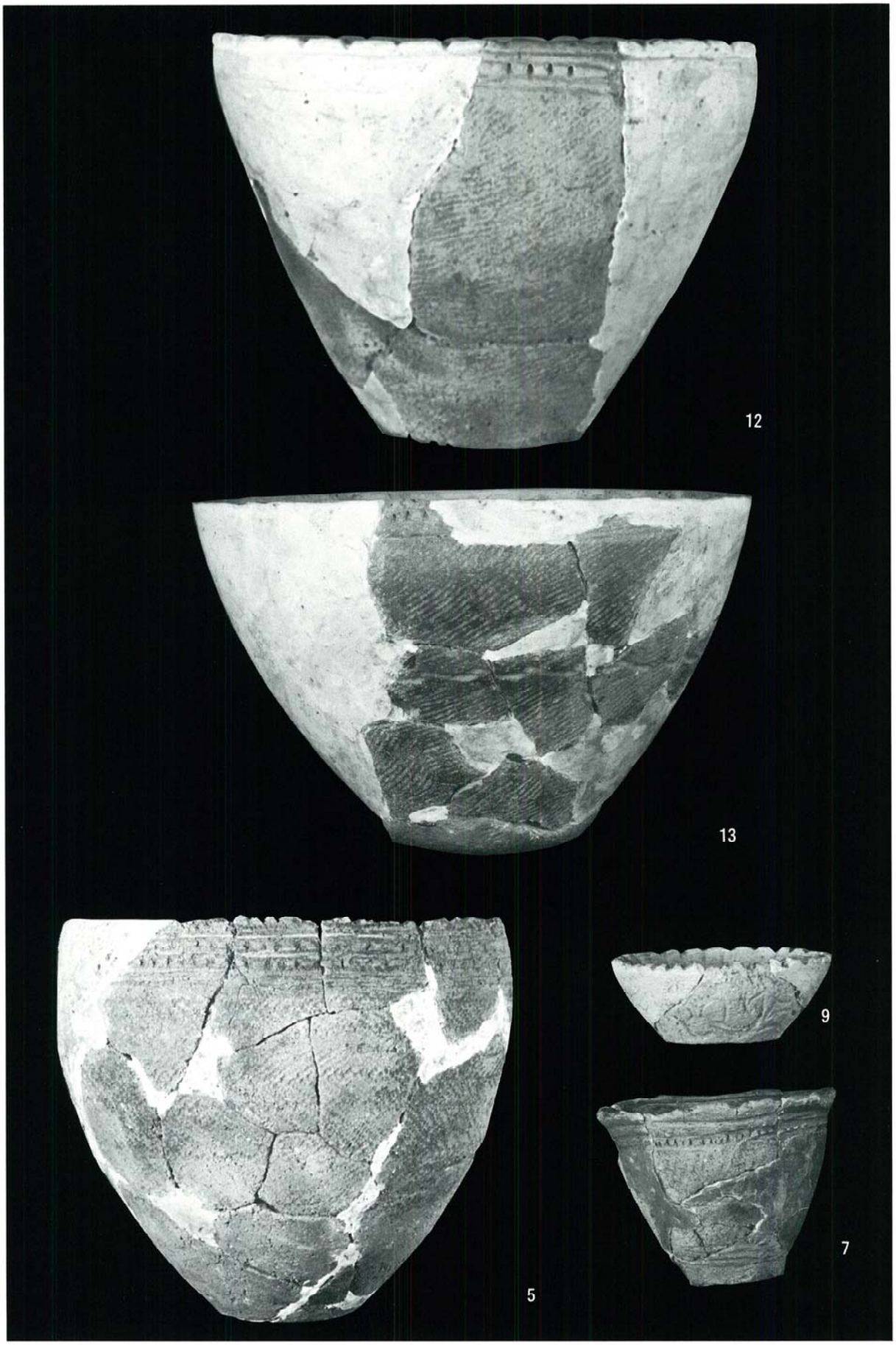
第四図版　杢代遺跡出土の土器（一）



第五図版　李代遺跡出土の土器（二）



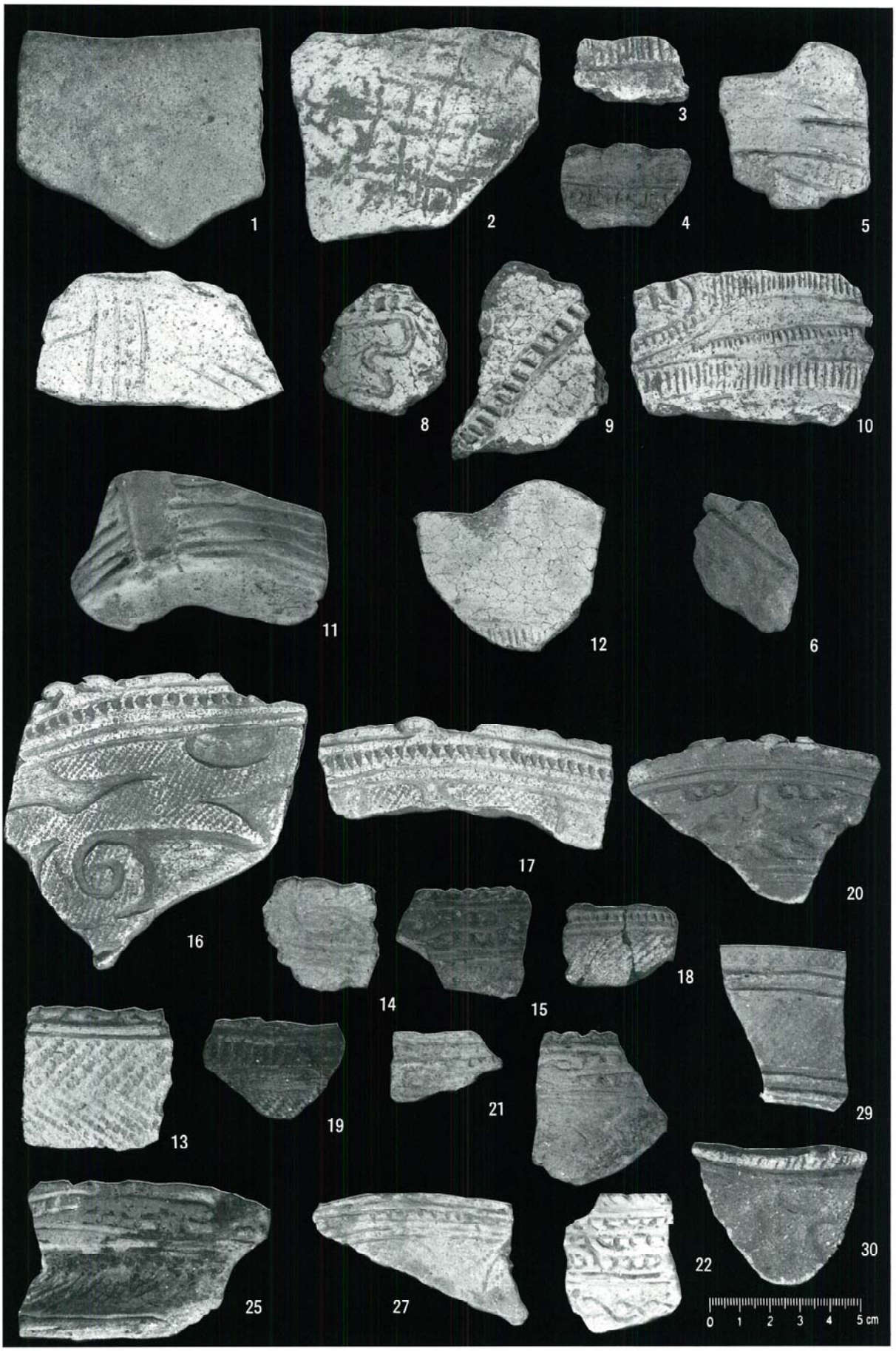
第六図版　杢代遺跡出土の土器（三）



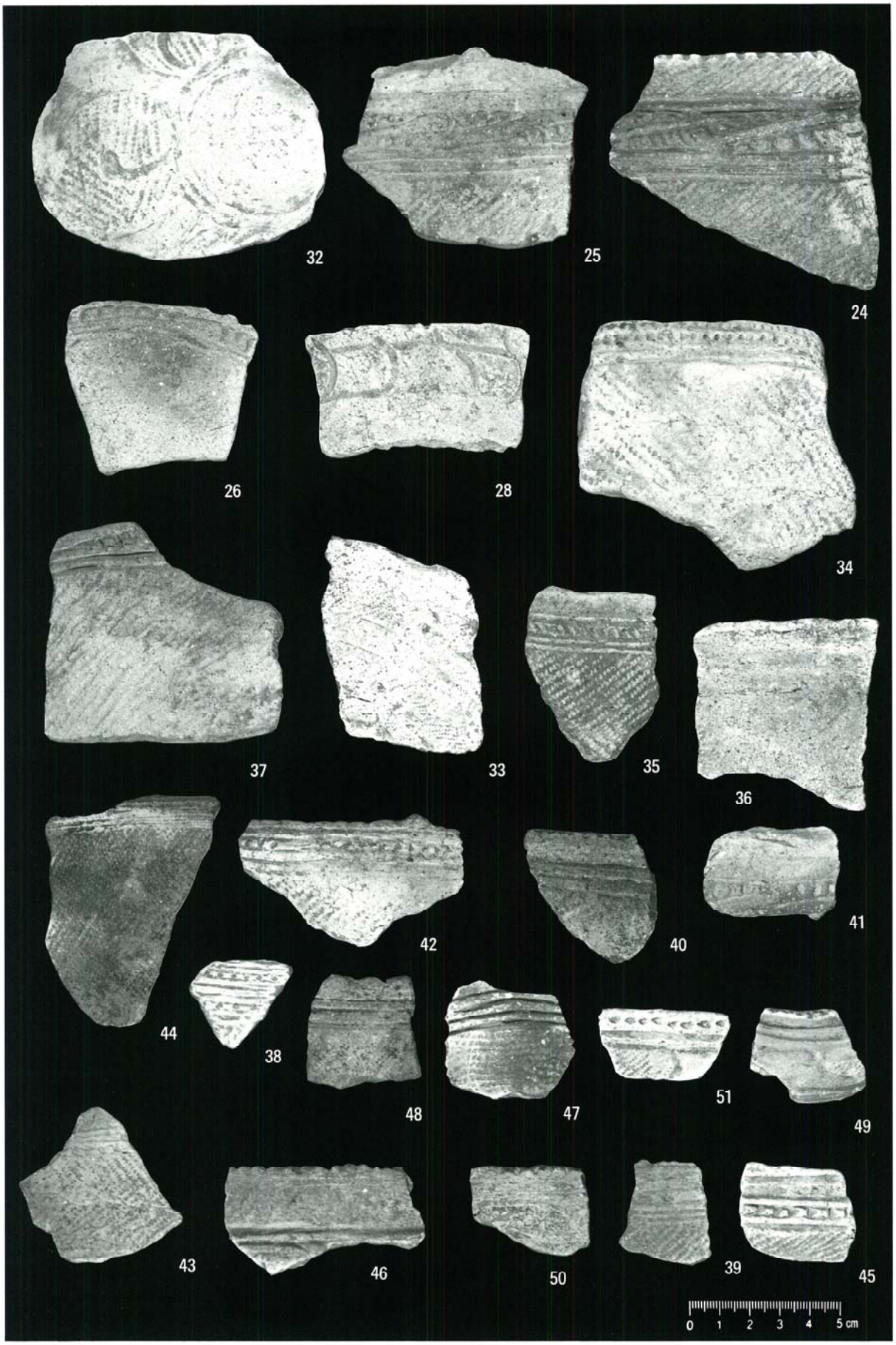
第七図版　杢代遺跡出土の土器（四）

第八図版　李代遺跡出土の土器（五）

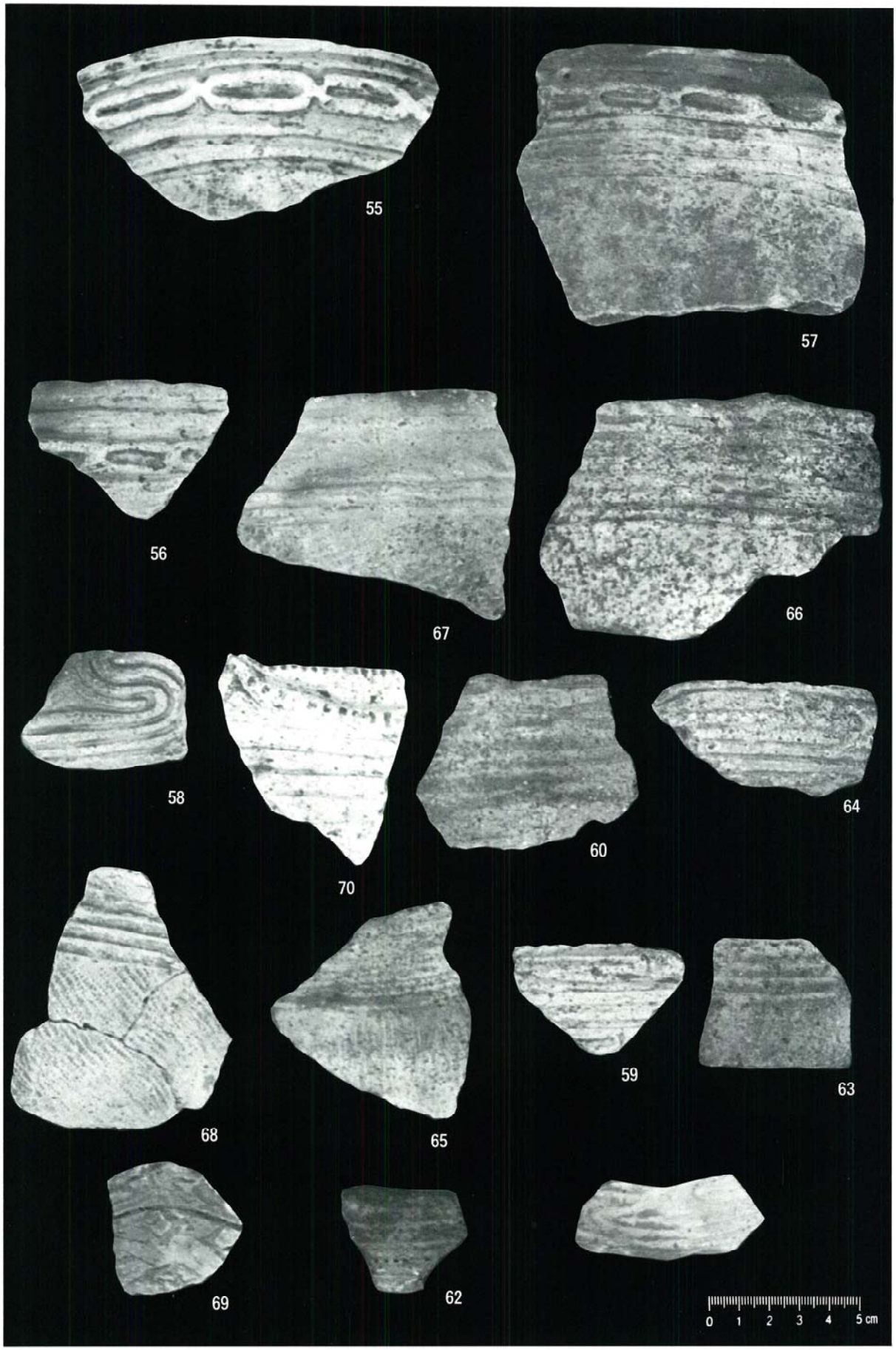
第九図版　本代遺跡出土の土器（六）



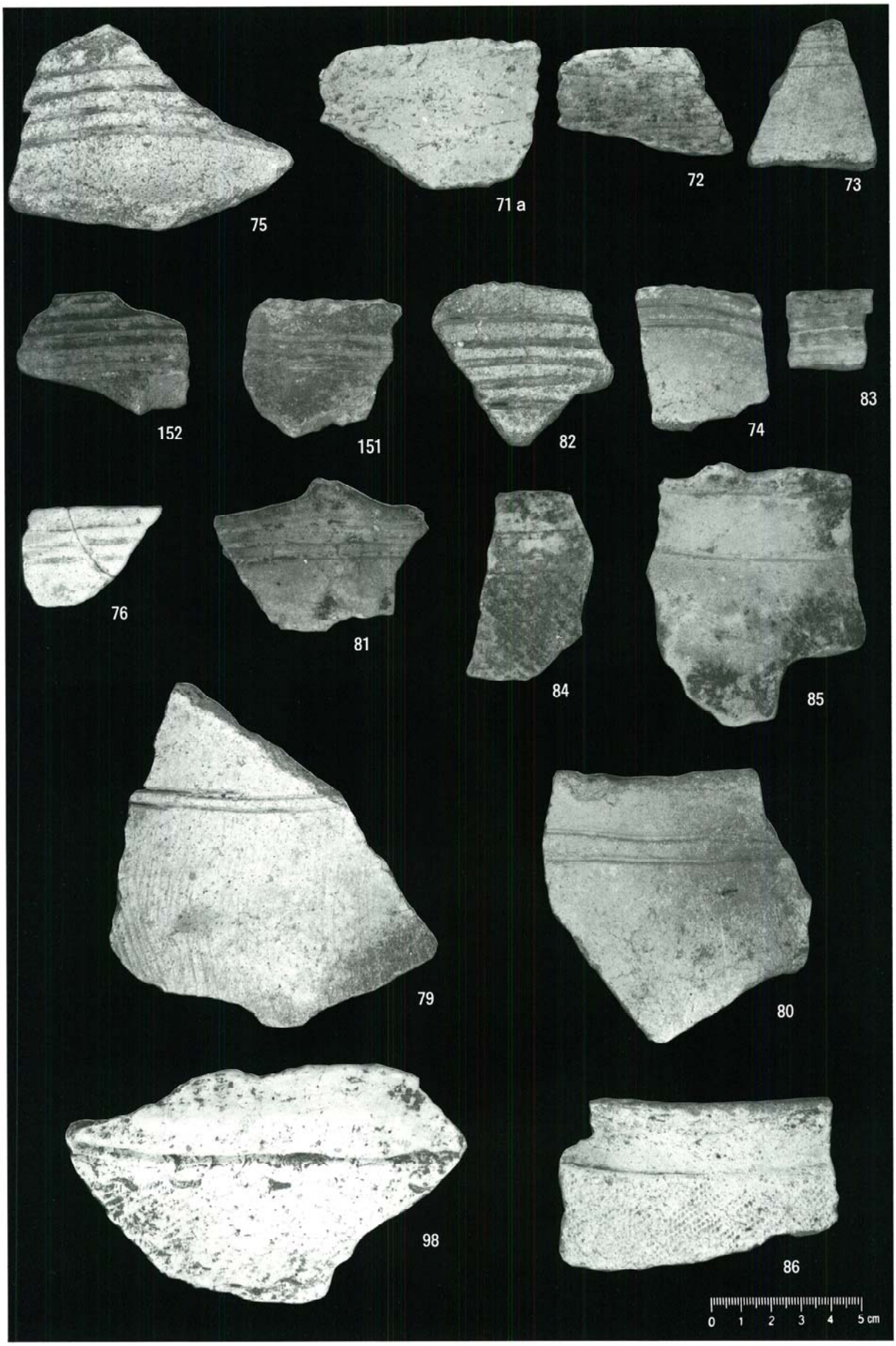
第十図版　李代遺跡出土の土器（七）

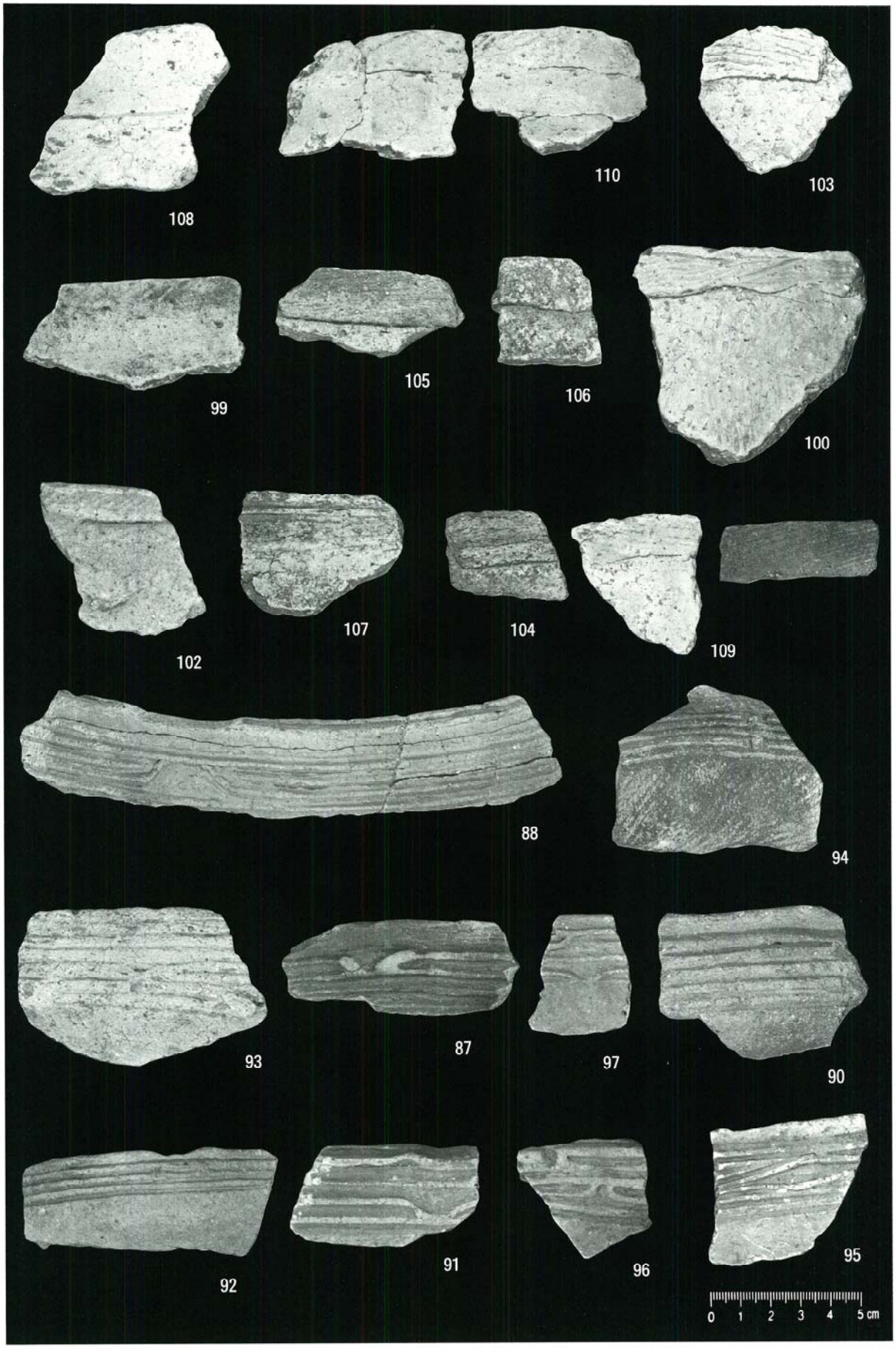


第十一図版　杢代遺跡出土の土器（八）



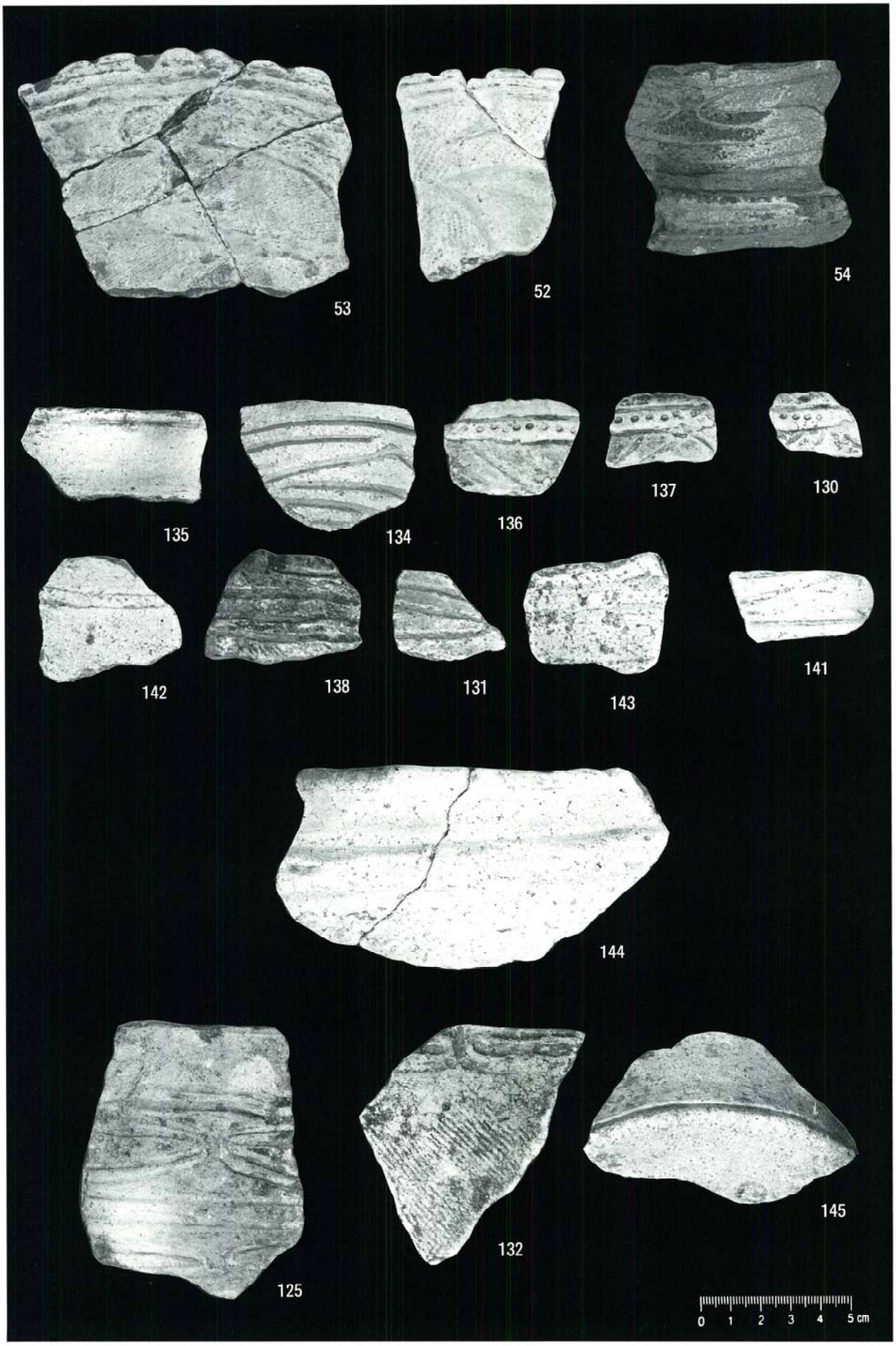
第十二図版　李代遺跡出土の土器（九）



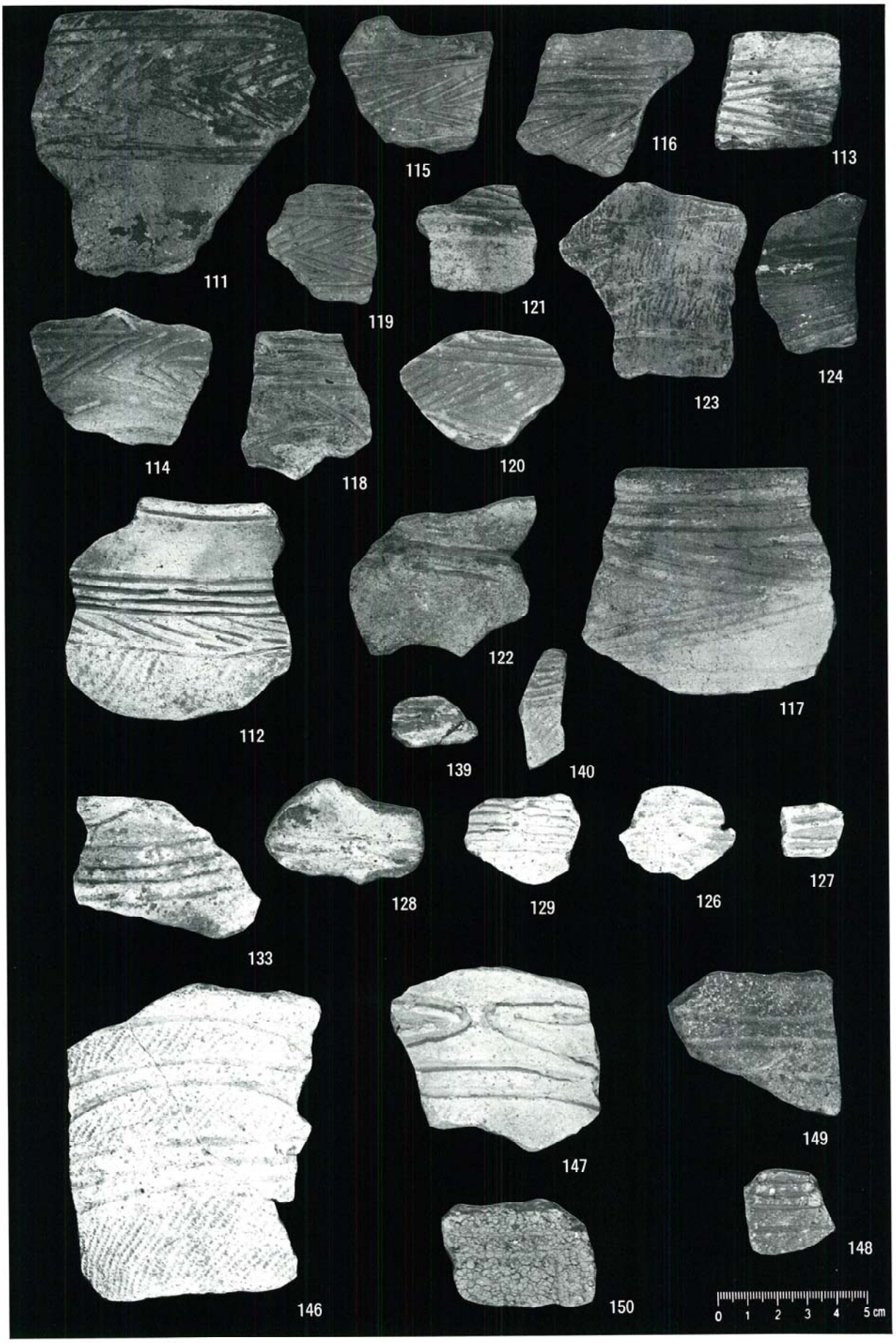


第十三図版　杢代遺跡出土の土器（十）

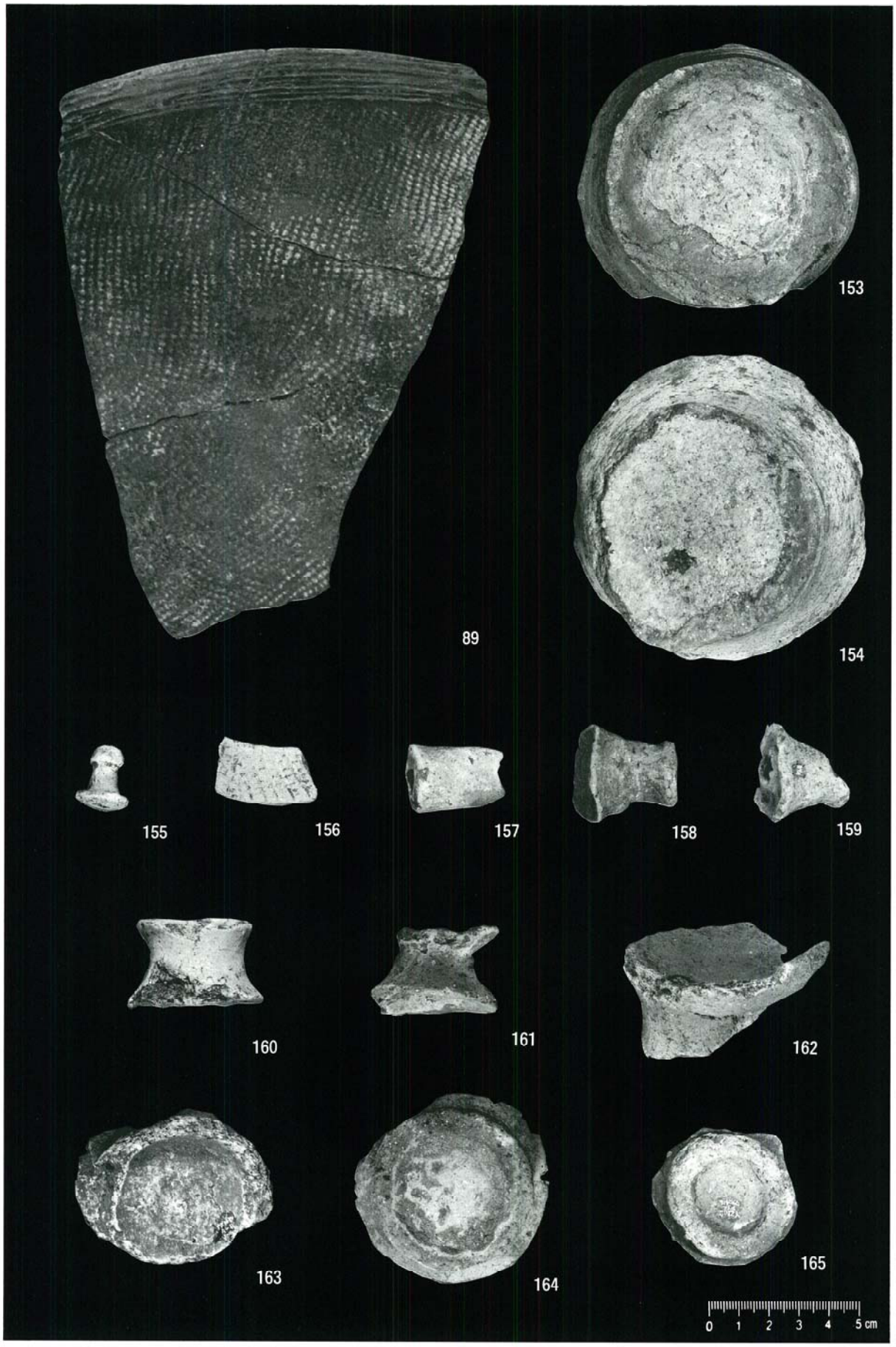
第十四図版　李代遺跡出土の土器（十一）



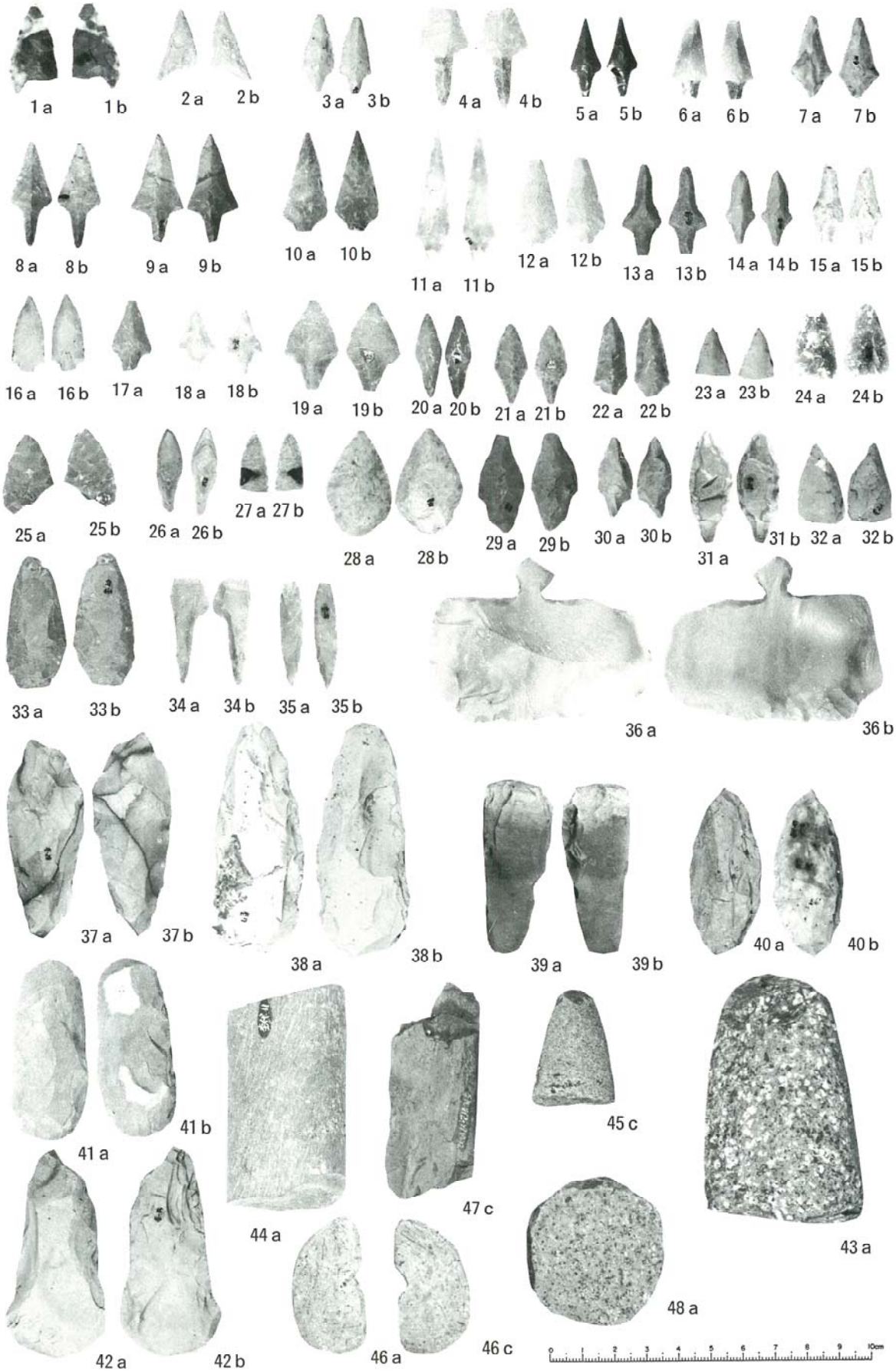
第十五図版　杢代遺跡出土の土器（十二）



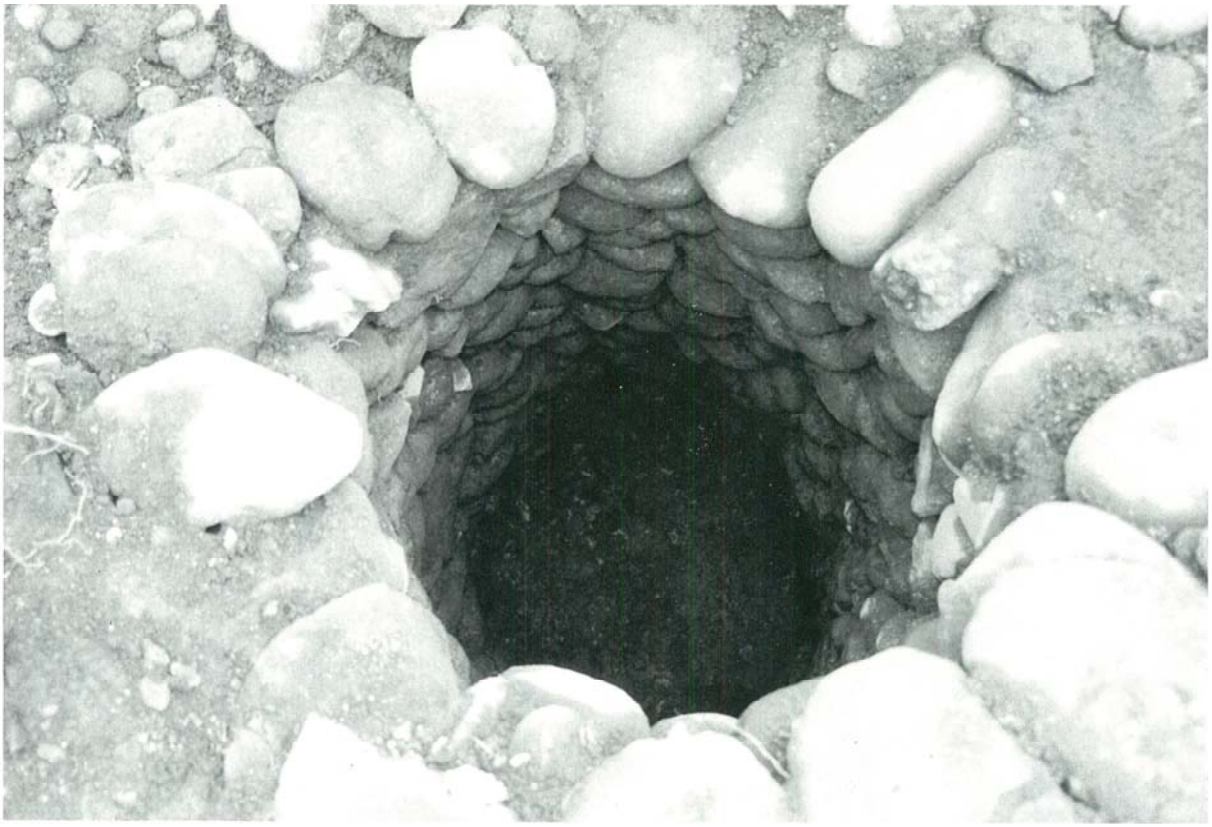
第十六図版　杢代遺跡出土の土器（十三）



第十七図版　杢代遺跡出土の石器（一）



第十八図版　大樽遺跡の発掘（一）



▲ 井戸跡近景（南東から撮影）

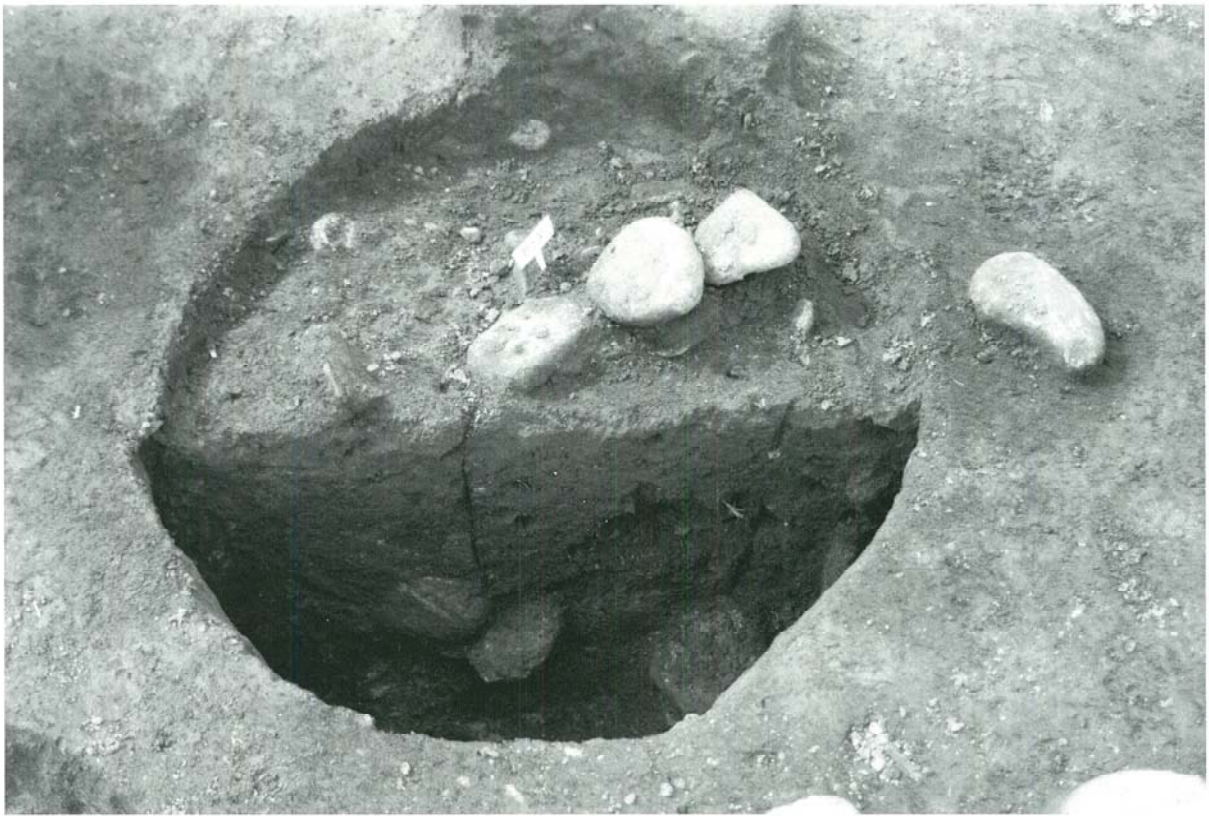
▲ 調査区全景（西方から撮影）

▲ ＳＹ１半裁状況（南方から撮影）

▲ 流し場跡近景（東方から撮影）

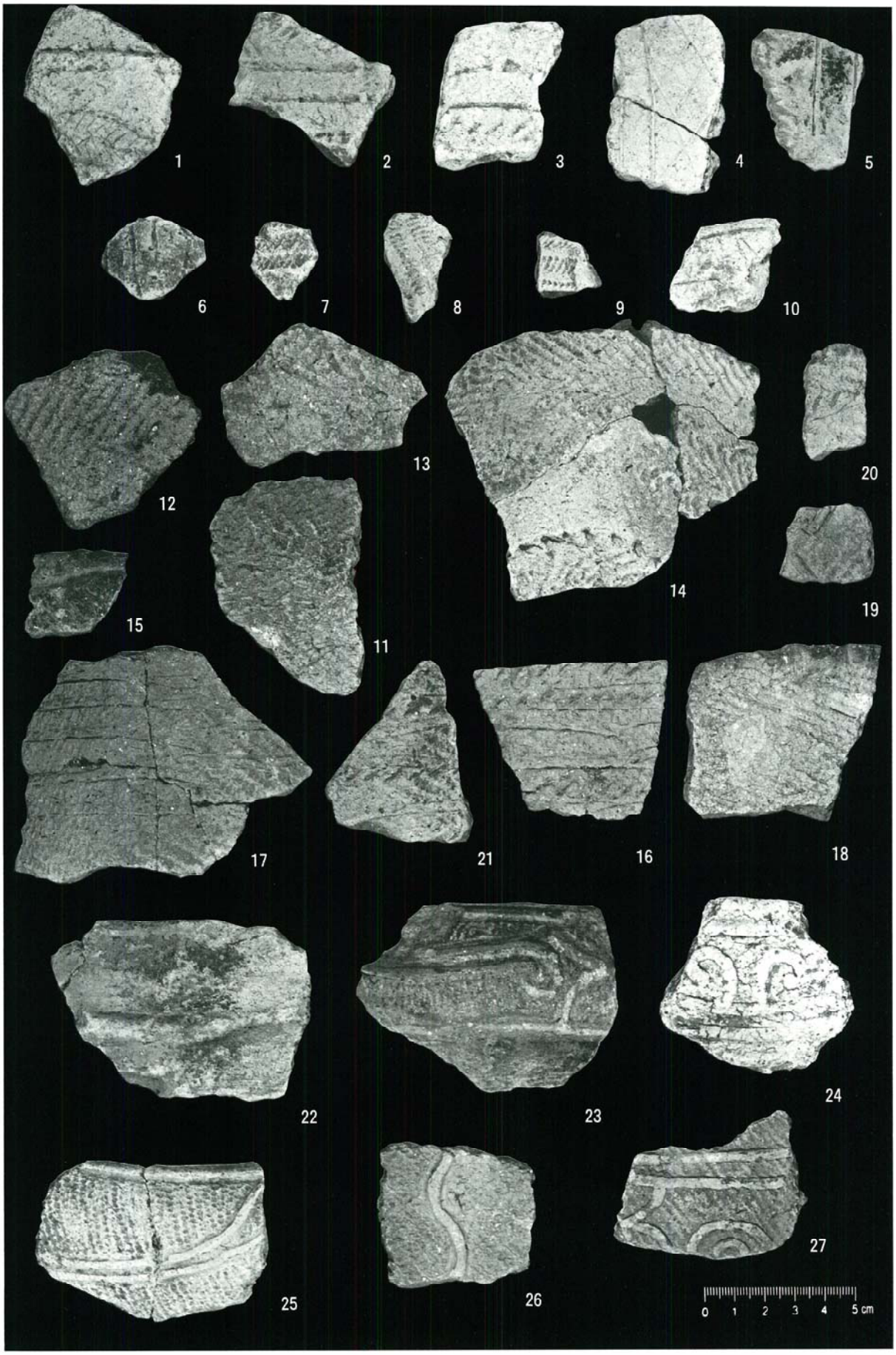
第二十図版　大樽遺跡の発掘（三）

▲ ＴＹ７半裁状況（北東から撮影）

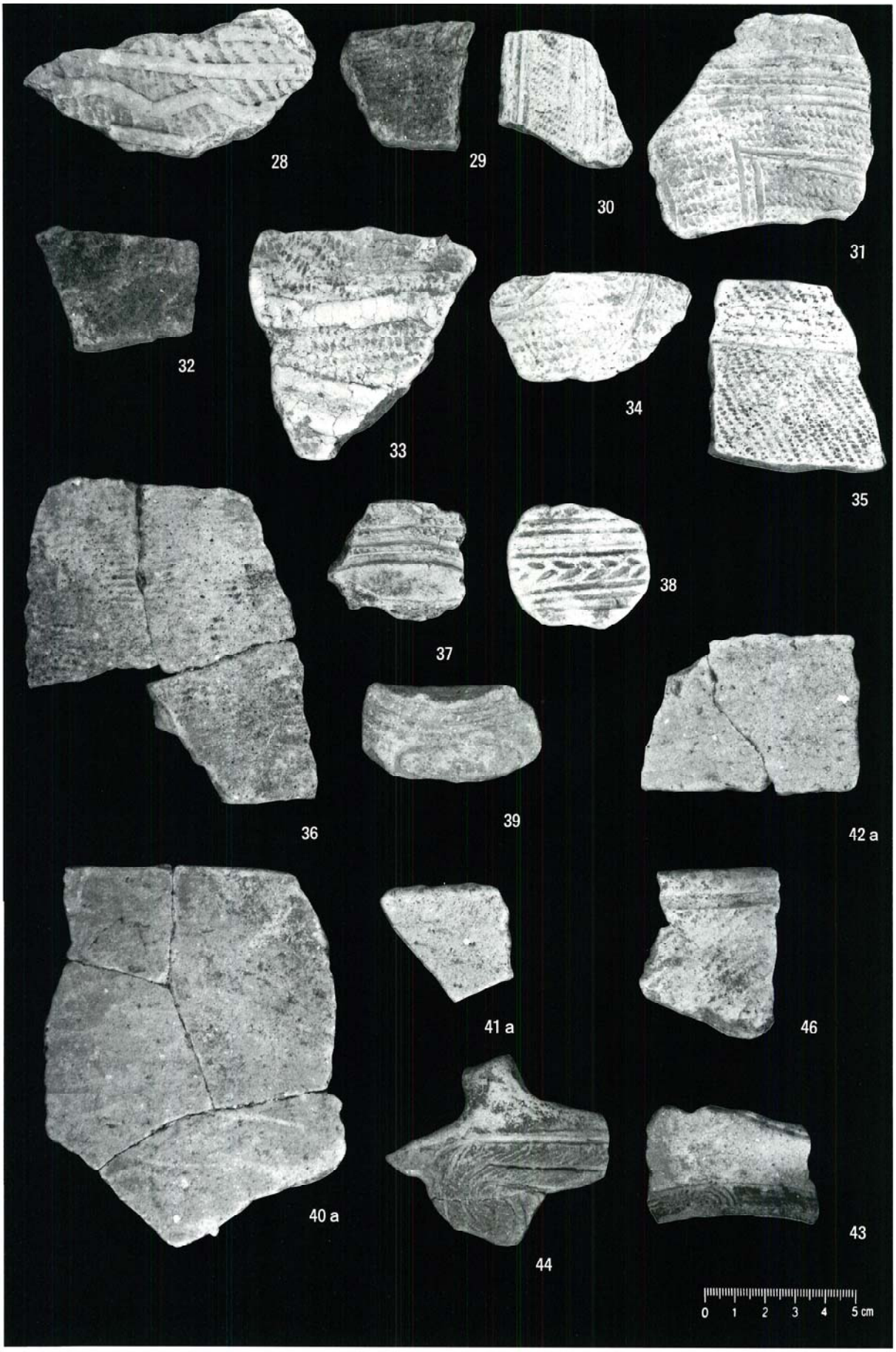


▲ ＴＹ８半裁状況（北方から撮影）

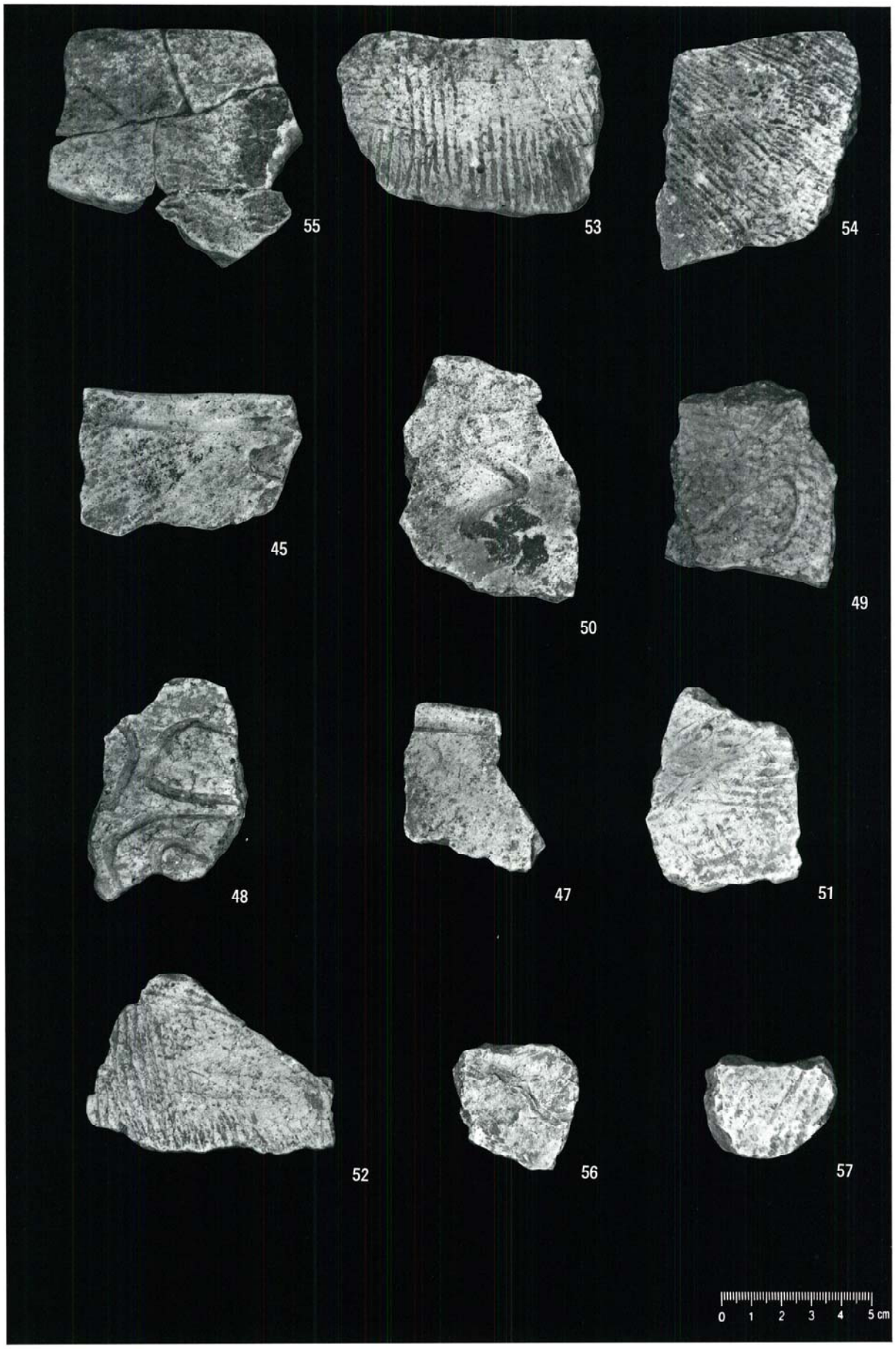
第二十一図版　大樽遺跡出土の土器（一）



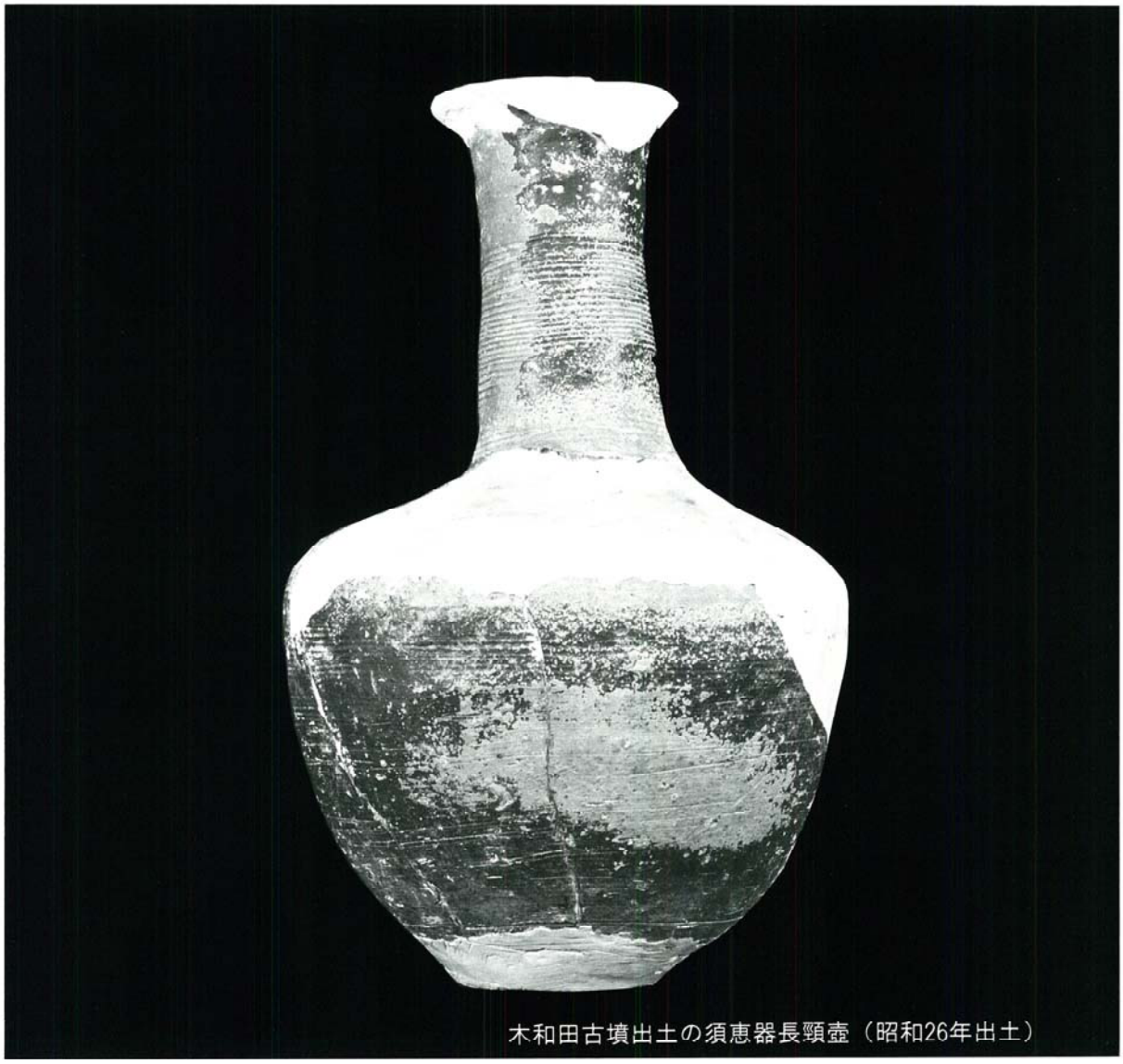
第二十二図版　大樽遺跡出土の土器（二）



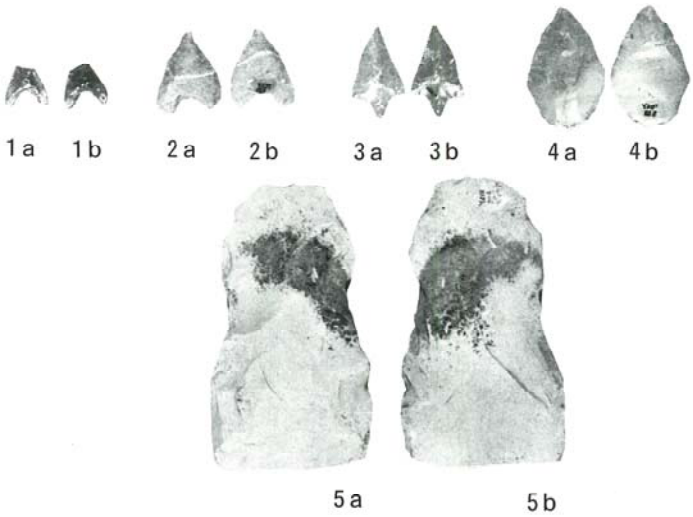
第二十三図版　大樽遺跡出土の土器（三）



第二十四図版　大樽遺跡出土の石器・木和田古墳出土の須恵器



木和田古墳出土の須恵器長頸壺（昭和26年出土）



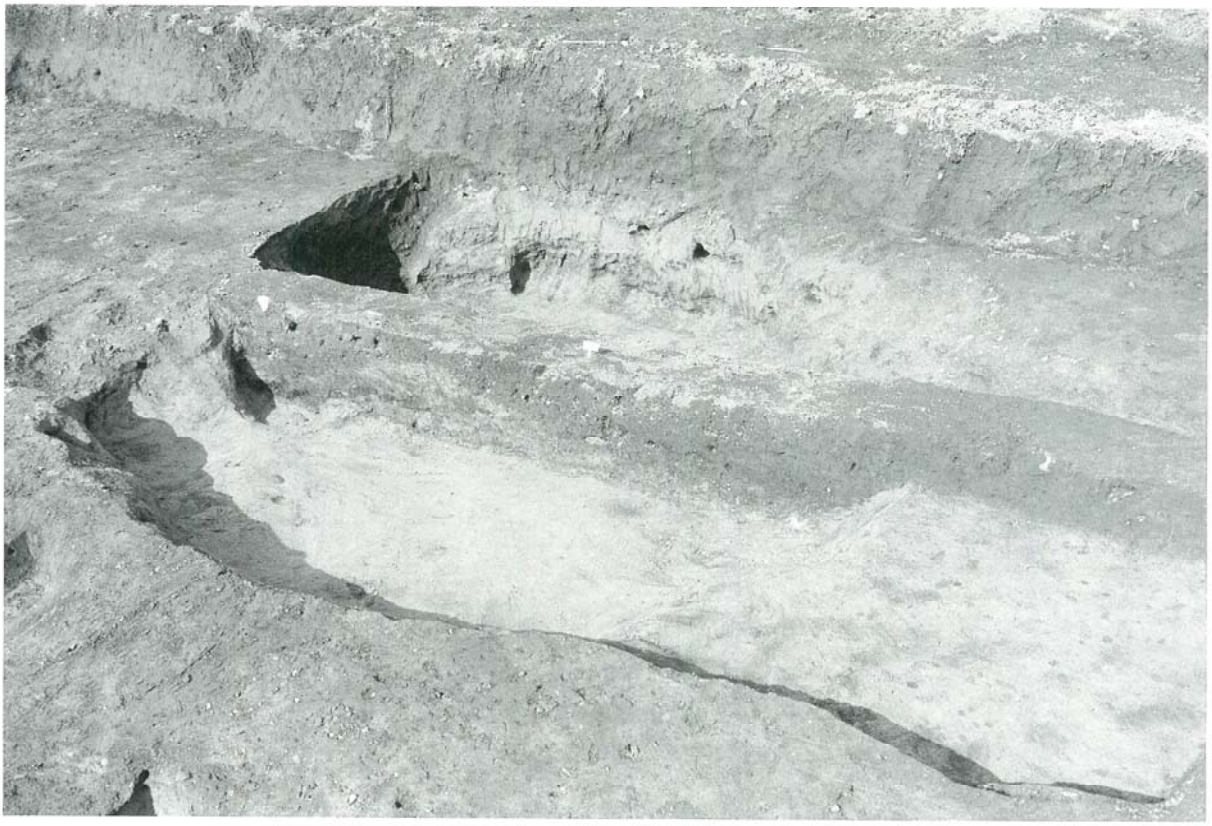
大樽遺跡出土の石器

第二十五図版　大塚山遺跡の発掘（一）

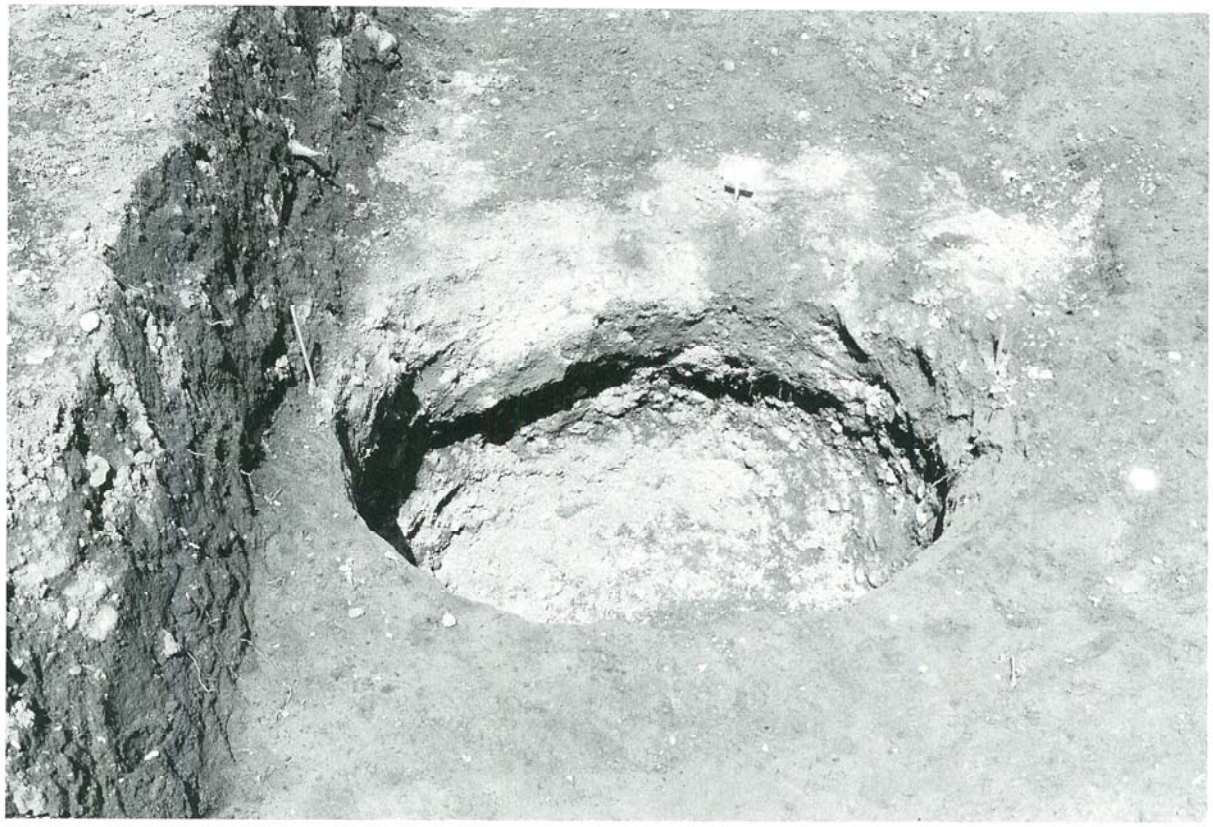
▲ 調査風景（南東から撮影）

▲ 調査区全景（南西から撮影）

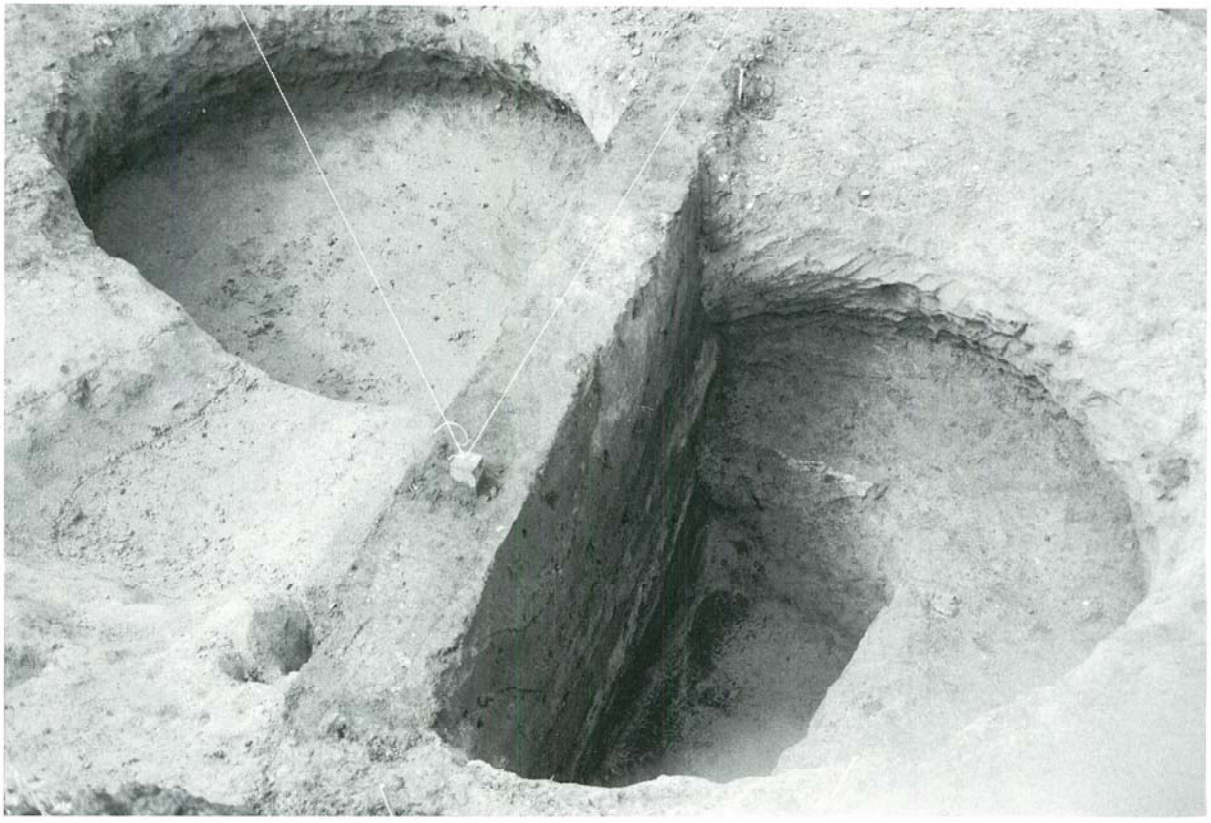
▲ おちこみ箇所セクション状況（北東から撮影）



▲ ＤＹセクション状況（西南から撮影）

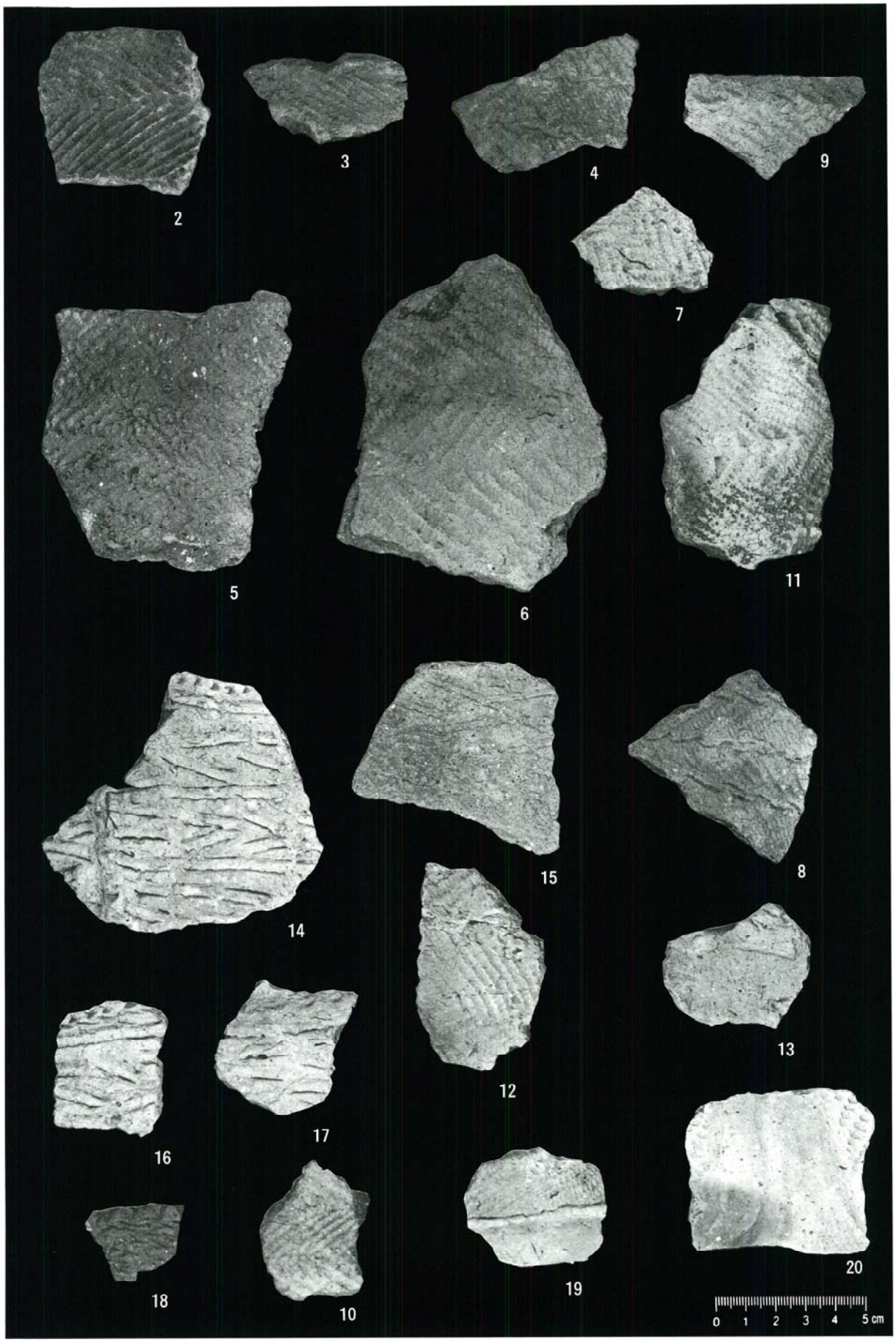


▲ ＤＹ３完掘状況（南方から撮影）

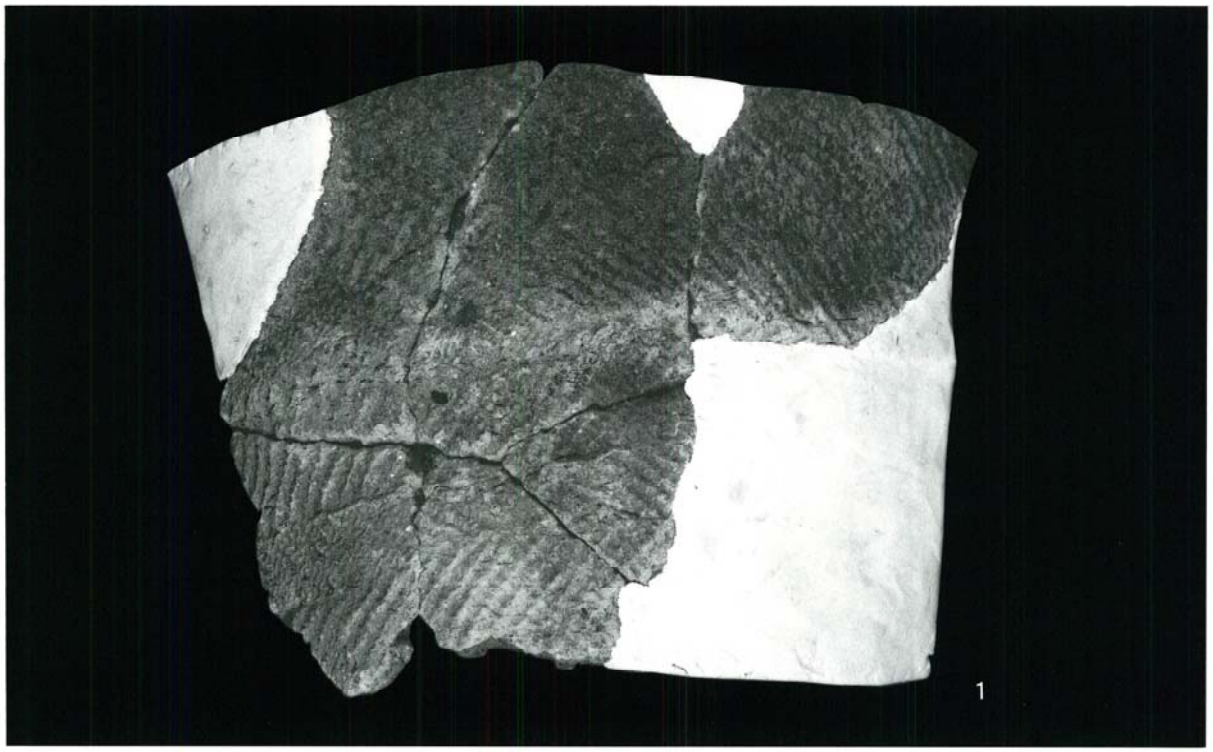


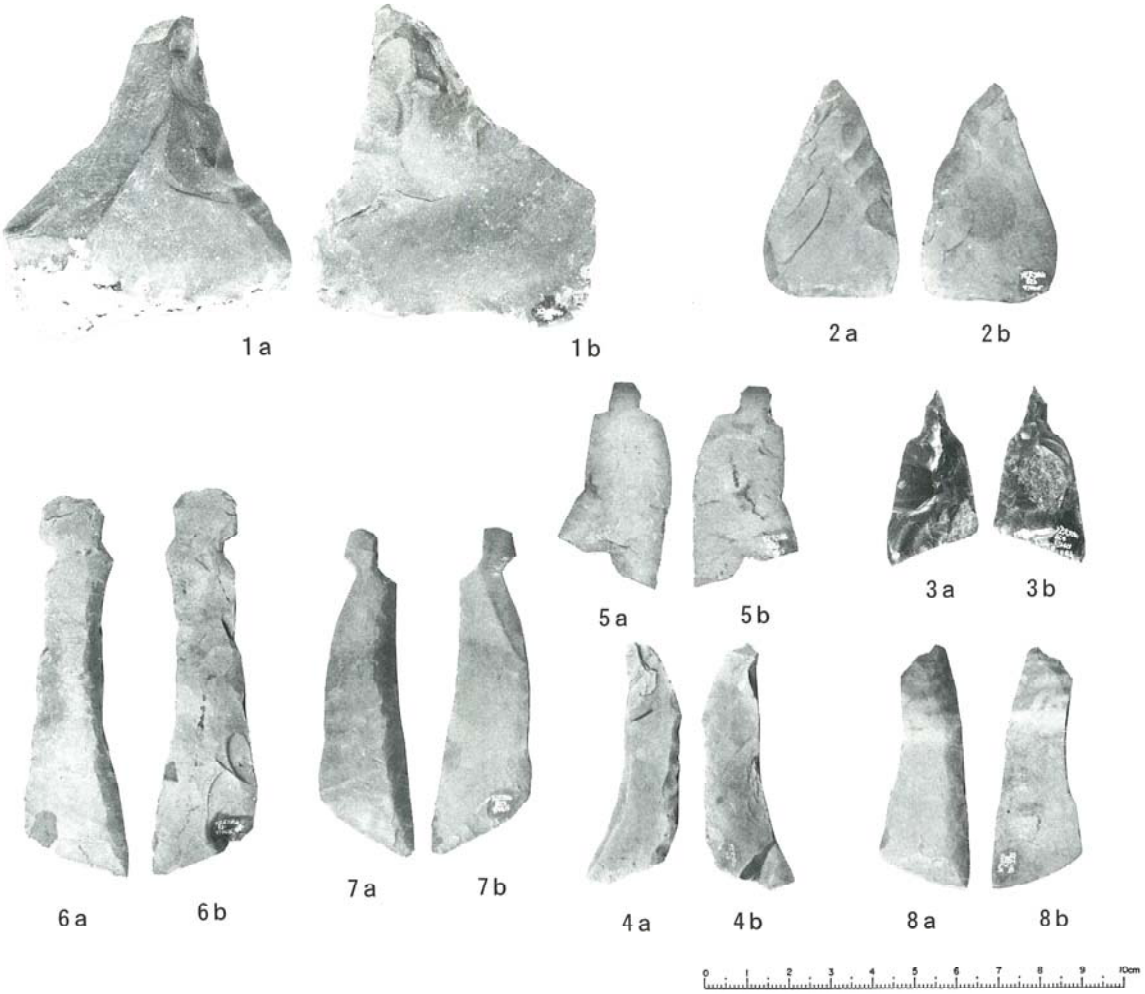
▲ ＤＹ７半裁状況（南方から撮影）

第二十八図版　大塚山遺跡出土の土器（一）



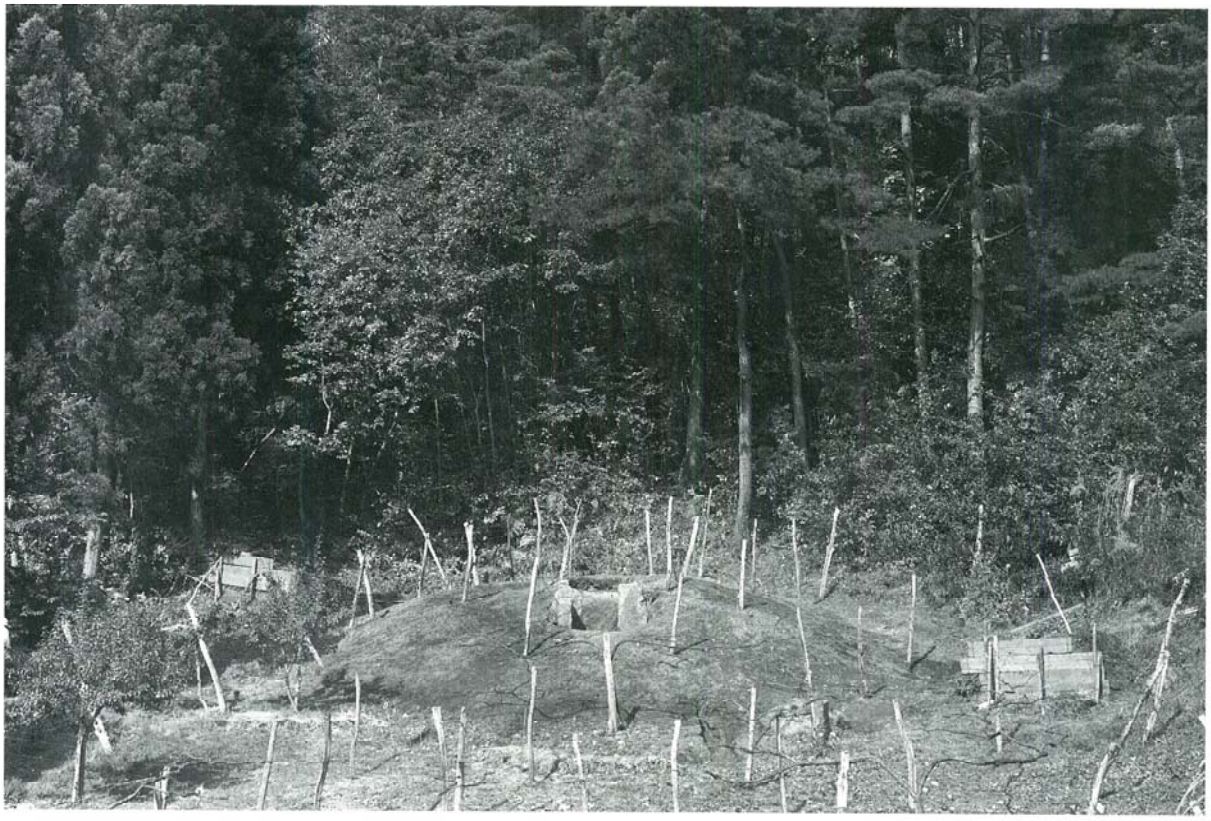
第二十九図版　大塚山遺跡出土の土器・石器（一）





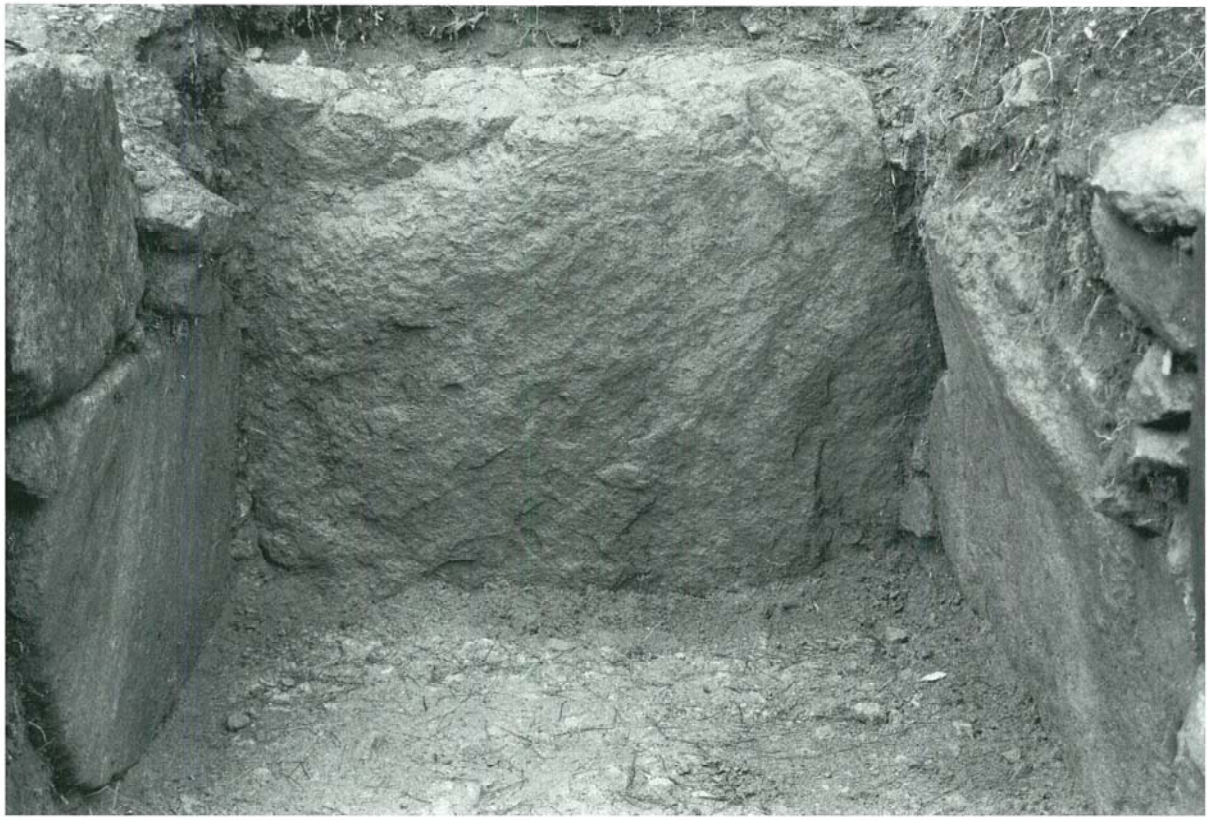
第三十図版　木和田古墳の発掘（一）

▲ 遺跡遠景（南方から撮影）

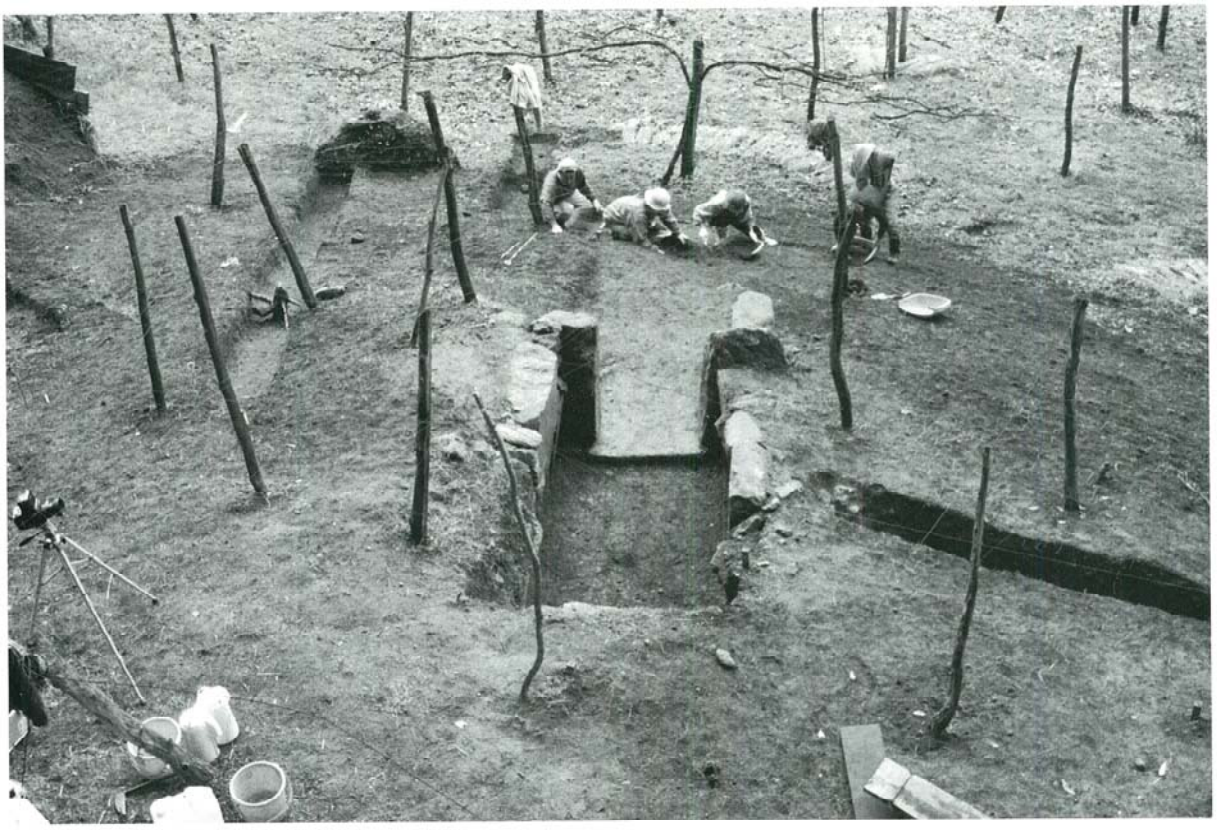


▲ 古墳全景（南東から撮影）

▲ 東方側壁近景（西方から撮影）



▲ 奥壁近景（南東から撮影）



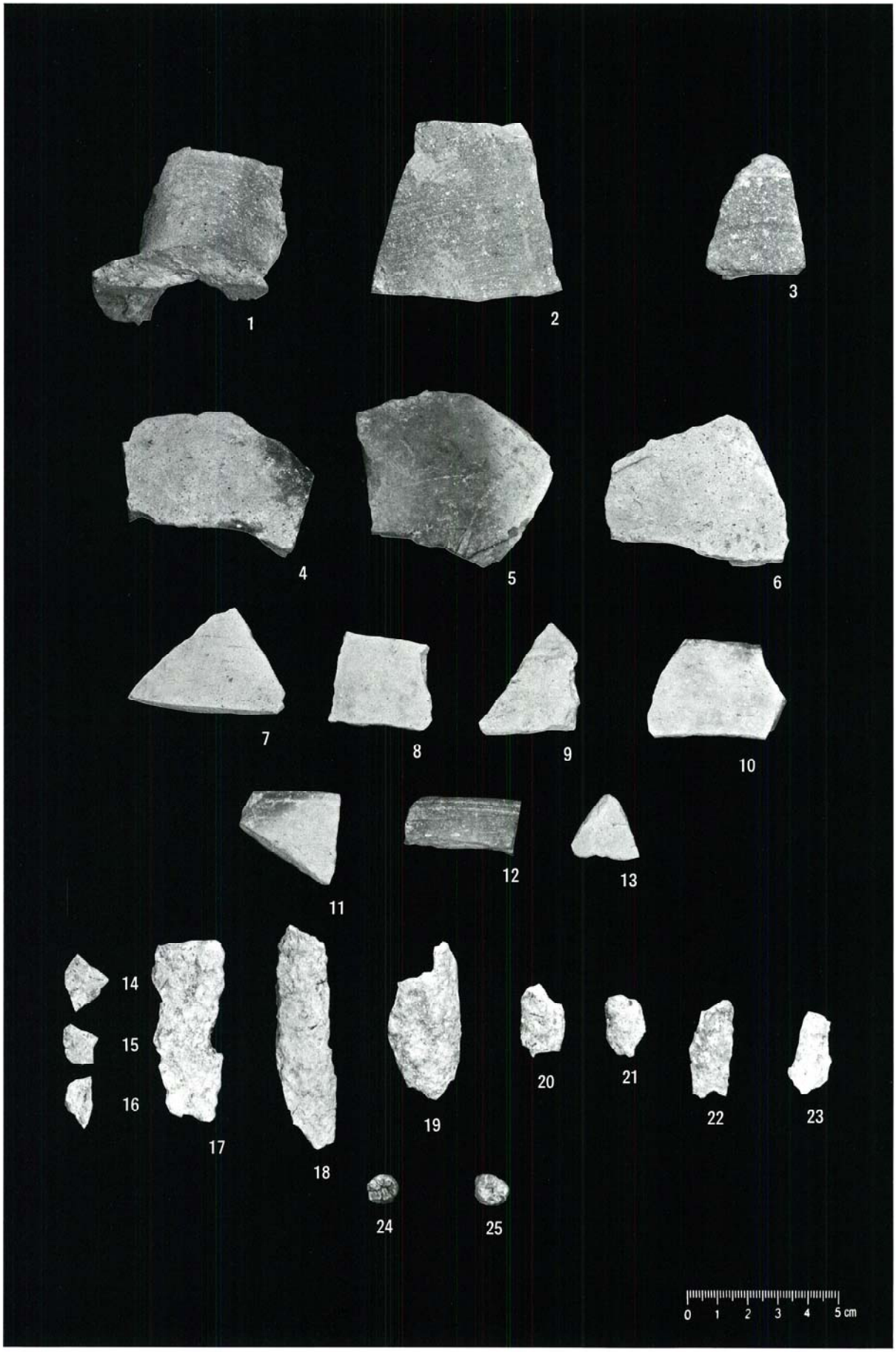
▲ 前庭部調査風景（北西から撮影）

▲ 玄門近景（南東から撮影）

▲ Ｔ６トレンチ裏ごめ石出土状況（西方から撮影）

▲ Ｔ６トレンチ墳丘下場の確認状況（南東から撮影）

第三十四図版　木和田古墳出土の遺物（一）



報告書抄録

ふりがな	いせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻次	第11集
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第61集
編著者名	菊地政信・月山隆弘
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992　山形県米沢市金池三丁目1番55号　　TEL 0238-22-5111
発行年月日	西暦1998年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
杢代（もくだい）	山形県米沢市万世町梓山字杢代（やまがたけんよねざわしばんせいちょうずさやまあざもくだい）	6202	A-253	37度53分30秒	141度11分35秒	1997.04.11 1997.04.18	65	住宅
大樽（おおたる）	山形県米沢市舘山四丁目（やまがたけんよねざわしたてやまよんちょうめ）	6202	G-150	37度54分38秒	140度04分23秒	1997.04.15 1997.04.23	98	住宅
大塚山（おおつかやま）	山形県米沢市諸仏町（やまがたけんよねざわししょぶつまち）	6202	E-110	37度52分49秒	140度06分32秒	1997.04.07 1997.04.23	204	住宅
木和田古墳（きわだこふん）	山形県米沢市大字木和田字月原（やまがたけんよねざわしおおあざきわだあざつきのはら）	6202	A-214	37度55分02秒	140度10分13秒	1997.10.20 1997.11.05	320	学術調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
杢代	集落跡	縄文時代後期・晩期 弥生時代（中期）	土壙	縄文土器・石器・弥生土器	縄文晩期を代表する遺跡
大樽	集落跡	縄文時代早期～晩期	竪穴住居跡	縄文土器・石器	本市の西方を代表する複合遺跡
大塚山	集落跡	縄文時代前期～後期	土壙　基柱穴	縄文土器・石器	本市の南方を代表する複合遺跡
木和田古墳	横穴式古墳	古墳時代終末期	玄室現存	人骨・土師器 須恵器	置賜盆地で最大の玄室

米沢市埋蔵文化財調査報告書第61集
遺跡詳細分布調査報告書
第11集

平成10年３月24日印刷
平成10年３月30日発行

発行　米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
ＴＥＬ（0238）22-5111
（内線7504）

印刷　株式会社 川 島 印 刷
米沢市大字花沢221-2
ＴＥＬ（0238）21-5511㈹
ＦＡＸ（0238）21-5514